

令和7年度 九州地方ダム等管理フォローアップ委員会

令和6年 年次報告書

【概要版】

令和7年11月

国土交通省 九州地方整備局

独立行政法人 水資源機構

令和6年の九州地方のダム等管理状況のまとめ

■ 気象

- 九州地方の年降水量及び梅雨期降水量は、佐賀県を除き至近10年平均値を上回った。
- 令和6年に発生した台風のうち、8月に九州に接近した台風10号は、非常に強い勢力だった。
- 各ダムの流域平均年降水量及び年総流入量は、至近10年平均値を概ね上回った。

■ 防災操作等

- 5月～7月に発生した梅雨前線に伴う大雨では、3ダム2堰で防災操作や全開操作等が行われた。また、8月の台風10号による大雨では、4ダムで防災操作が行われた。
- 各ダムにおいて、地域の防災力の向上を目的として、洪水時のダム操作状況や住民への情報伝達のあり方等に関する意見交換が行われた。また、出水期前（4～6月）には、ダム下流関係者等を対象に、防災操作の仕組みやダム放流時の情報発信、連絡体制等を確認するダム放流連絡会が行われた。

■ 利水補給

- 令和6年は、筑後川水系において2月から4月にかけて上水の取水制限を実施したが、地域住民の生活に影響を及ぼすような状況は発生していない。

■ 堆砂

- 緑川ダム、松原ダム、下笠ダム、巖木ダム、竜門ダム、寺内ダム及び小石原川ダムでは、計画より早く堆砂が進んでいる。その他のダムでは、概ね計画程度の堆砂状況となっている。

■ 水質

- 各施設のCOD75%値及び堰等のBOD75%値は、概ね環境基準を満足していた。

■ 生物

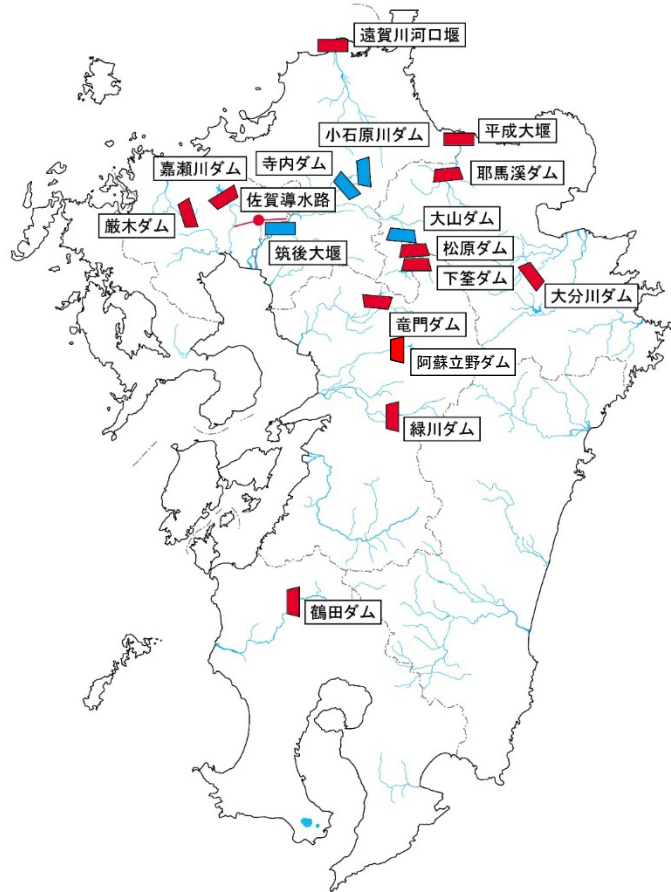
- 2ダムで魚類、3ダム2堰で底生動物、1ダムで植物、1ダムで鳥類、5ダム1堰1導水路で両生類・爬虫類・哺乳類の生物調査（河川水辺の国勢調査）が行われた。

■ 水源地域動態

- ダム等の機能や役割への理解を深めていただくために、ダムカードの配布やダム等の見学が行われた。
- また、広報支援としてX(Twitter)を活用し、ダムの観光資源としての魅力に加え、施設紹介や維持管理状況等の情報を発信している。
- 各ダム等において、施設や敷地等を活用したイベント等が開催され、地域活性化に向けた取り組みが積極的に行われた。

ダム・堰等の概要

管理者	施設名
国土交通省 九州地方整備局	鶴田ダム
	緑川ダム
	松原ダム
	下笠ダム
	耶馬溪ダム
	厳木ダム
	竜門ダム
	嘉瀬川ダム
	大分川ダム
	阿蘇立野ダム
	遠賀川河口堰
	平成大堰
	佐賀導水路
	寺内ダム
水資源機構	大山ダム
	小石原川ダム
	筑後大堰
	佐賀導水路



施設名	区分	施設数	凡例
ダム	直轄	10	■
堰		2	■
導水路		1	●
ダム	水資源機構	3	■
堰		1	■

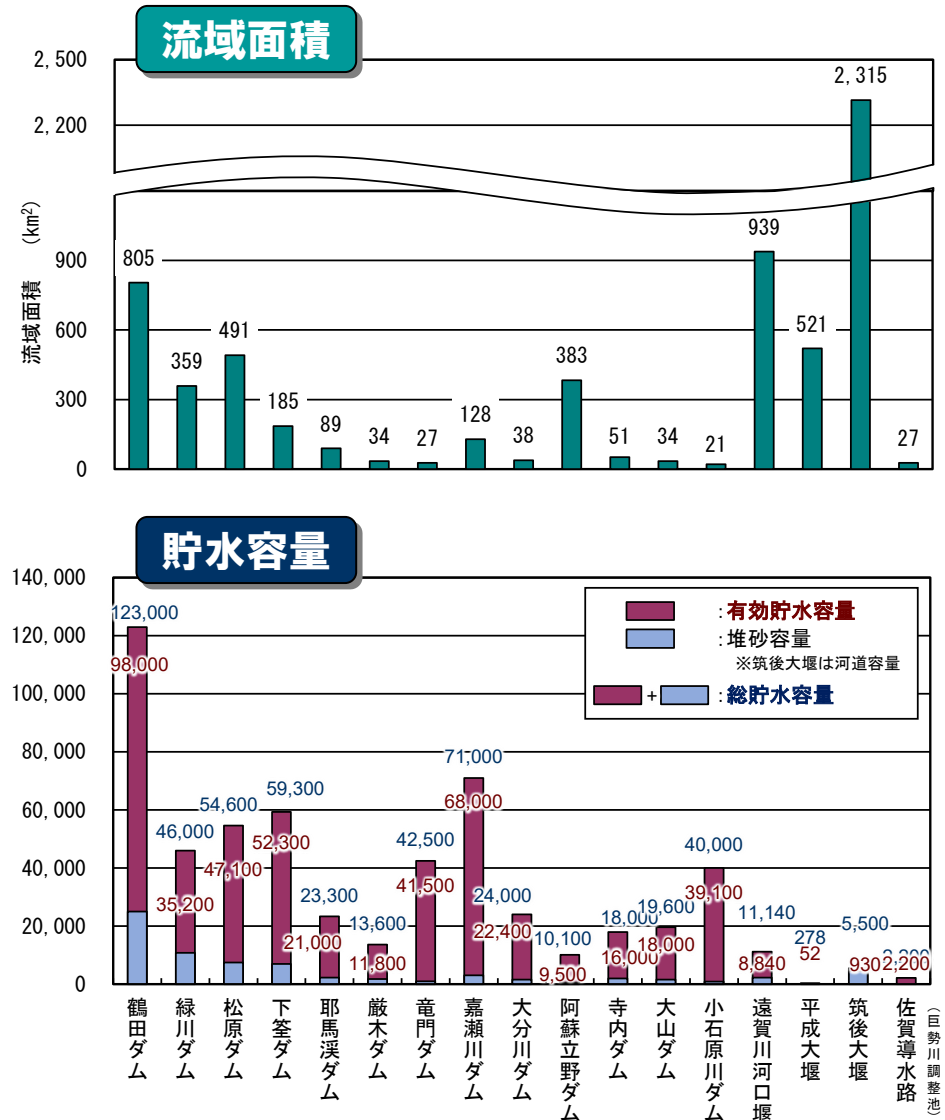








図-1 ダム等位置図

図-2 各ダム・堰等の流域面積および貯水容量

ダム・堰の諸元（１）

表-1 (1) ダム・堰の諸元

		国土交通省 九州地方整備局							
ダム名		鶴田ダム	緑川ダム	松原ダム	下笠ダム	耶馬溪ダム	巖木ダム	竜門ダム	嘉瀬川ダム
水系名及び河川名		川内川水系 川内川	緑川水系 緑川	筑後川水系 筑後川	筑後川水系 津江川	山国川水系 山移川	松浦川水系 巖木川	菊池川水系 迫間川	嘉瀬川水系 嘉瀬川
管理開始		昭和41年度	昭和46年度	昭和48年度	昭和48年度	昭和60年度	昭和62年度	平成14年度	平成24年度
管理事務所等名		鶴田ダム管理所	緑川ダム管理所	筑後川ダム 統合管理事務所 松原ダム管理支所	筑後川ダム 統合管理事務所 下笠ダム管理支所	山国川河川事務所	武雄河川事務所 巖木ダム管理支所	菊池川河川事務所 竜門ダム管理支所	佐賀河川事務所 嘉瀬川ダム管理支所
所在地		左岸： 鹿児島県薩摩郡 さつま町大字鶴田 右岸： 鹿児島県薩摩郡 さつま町大字神子	左岸： 熊本県下益城郡美里町 洞岳 右岸： 熊本県下益城郡美里町 畝野	左岸： 大分県日田市大山町 西大山 右岸： 大分県日田市天瀬町 出口	左岸： 大分県日田市中津江村 栃野 右岸： 熊本県阿蘇郡小国町 大字黒淵	左岸： 大分県中津市耶馬溪町 大島 右岸： 大分県中津市耶馬溪町 柿坂	左岸： 佐賀県唐津市巖木町 広瀬 右岸： 佐賀県唐津市巖木町 広瀬	左岸： 熊本県菊池市大字龍門 勢埴 右岸： 熊本県菊池市大字龍門 字美賀大字斑蛇口字下 鶴	左岸： 佐賀県佐賀市富士町 大字小副川 右岸： 佐賀県佐賀市富士町 大字畑瀬
外観									
ダムの諸元	形式	重力式 コンクリートダム	主ダム：重力式 コンクリートダム 脇ダム：ロックフィルダム	重力式 コンクリートダム	アーチ式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム	複合ダム (重力式コンクリート、 ロックフィルダム)	重力式 コンクリートダム
	目的	(F), N, A, W, I, (P)	(F), (N), (A), W, I, (P)	(F), (N), A, W, I, (P)	(F), (N), A, W, I, (P)	(F), (N), A, W, I, (P)	(F), (N), A, W, I, (P)	(F), (N), (A), W, I, P	(F), (N), (A), W, I, (P)
	堤高	117. 5m	主ダム：76. 5m 脇ダム：35. 0m	83. 0m	98. 0m	62. 0m	117. 0m	重力式ダム：99. 5m フィルダム：31. 4m	99. 0m
	堤頂長	450. 0m	主ダム：295. 3m 脇ダム：244. 0m	192. 0m	248. 2m	313. 0m	390. 4m	重力式ダム：380. 0m フィルダム：240. 0m 計：620. 0m	456. 0m
	流域面積	805. 0km ²	359. 0km ²	491. 0km ²	185. 0km ²	89. 0km ²	33. 7km ²	26. 5km ²	128. 4km ²

※：ダムの目的 F：洪水調節、N：流水の正常な機能の維持、A：特定灌漑、W：上水、I：工水、P：発電

ダム・堰の諸元（２）

表-1 (2) ダム・堰の諸元

		国土交通省 九州地方整備局				水資源機構				
ダム名		大分川ダム	阿蘇立野ダム	遠賀川河口堰	平成大堰	佐賀導水路 (巨勢川調整池)	寺内ダム	大山ダム	小石原川ダム	筑後大堰
水系名及び河川名		大分川水系 七瀬川	白川水系 白川	遠賀川水系 遠賀川	山国川水系 山国川	流況調整河川 (筑後川水系：筑後川, 城原川 嘉瀬川水系：嘉瀬川)	筑後川水系 佐田川	筑後川水系 赤石川	筑後川水系 小石原川	筑後川水系 筑後川
管理開始		令和2年度	令和6年度	昭和58年度	平成3年度	平成21年度	昭和53年度	平成25年度	令和2年度	昭和60年度
管理事務所等名		大分河川国道事務所 ななせダム管理庁舎	熊本河川国道事務所	遠賀川河川事務所 河口堰管理支所	山国川河川事務所	佐賀河川事務所	筑後川上流総合管理所 寺内ダム管理所	筑後川上流総合管理所 大山ダム管理所	筑後川上流総合管理所 小石原川ダム管理所	筑後川下流総合管理所 筑後大堰管理所
所在地		左岸： 大分県大分市 大字下原地先 右岸： 大分県大分市 大字下原地先	左岸： 熊本県菊池郡 大津町大字外牧地先 右岸： 熊本県阿蘇郡 南阿蘇村大字立野	左岸： 福岡県遠賀郡芦屋 町祇園崎 右岸： 福岡県遠賀郡水巻 町猪熊	左岸： 福岡県築上郡上毛 町垂水 右岸： 大分県中津市 大字高瀬	左岸： 佐賀県三養基郡 みやき町大字 右岸： 佐賀県佐賀市鍋島 町鍋島	左岸： 福岡県朝倉市 大字荷原 右岸： 福岡県朝倉市 大字荷原	左岸： 大分県日田市大山 町西大地地先 右岸： 大分県日田市大山 町西大地地先	左岸： 福岡県朝倉市 大字江川地先 右岸： 福岡県朝倉市 大字江川地先	左岸： 福岡県久留米市 安武町大字武島地先 右岸： 佐賀県三養基郡 みやき町大字江口地先
外観										
ダムの諸元	形式	ロックフィルダム	曲線重力式 コンクリートダム	可動堰	可動堰	掘込式調整池	ロックフィルダム	重力式 コンクリートダム	ロックフィルダム	可動堰
	目的	(F), (N), A, (W), I, P	(F), N, A, W, I, P	(F), (N), A, (W), (I), P	(F), (N), A, (W), I, P	(F), (N), A, (W), I, P	(F), (N), A, (W), I, P	(F), (N), A, (W), I, P	(F), (N), A, (W), I, P	(F), (N), A, (W), I, P
	堤高	91.6m	87.0m	6.5m	3.2m	導水路総延長 約23km 東佐賀導水路 約13.2km 西佐賀導水路 約9.8km	83.0m	94.0m	139.0m	6.4m
	堤頂長	495.7m	197.0m	517.0m	218.0m		420.0m	370.0m	558.3m	501.6m
	流域面積	38.0km ²	383.0km ²	938.6km ²	521.0km ²		51.0km ²	33.6km ²	20.5km ²	2,315km ²

※：ダムの目的 F：洪水調節、N：流水の正常な機能の維持、A：特定灌漑、W：上水、I：工水、P：発電

ダム・堰の容量配分（１）

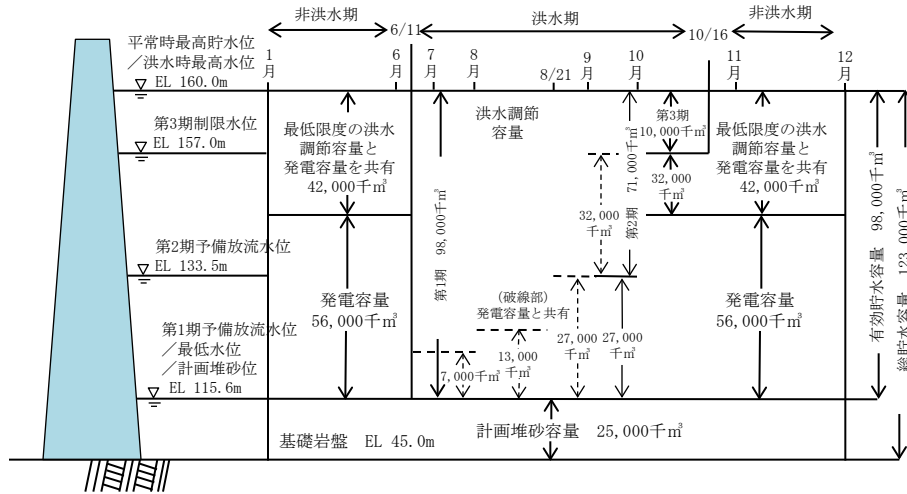


図-3(1) 鶴田ダム容量配分図

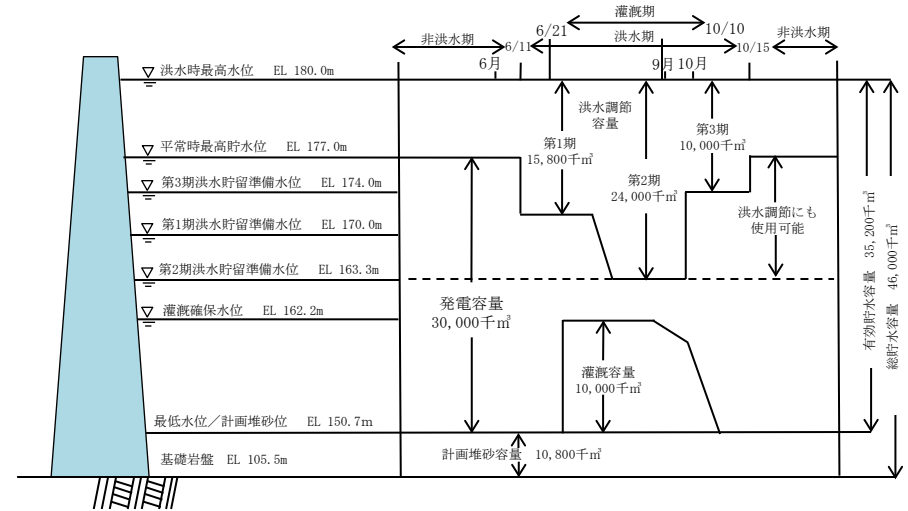


図-3(2) 緑川ダム容量配分図

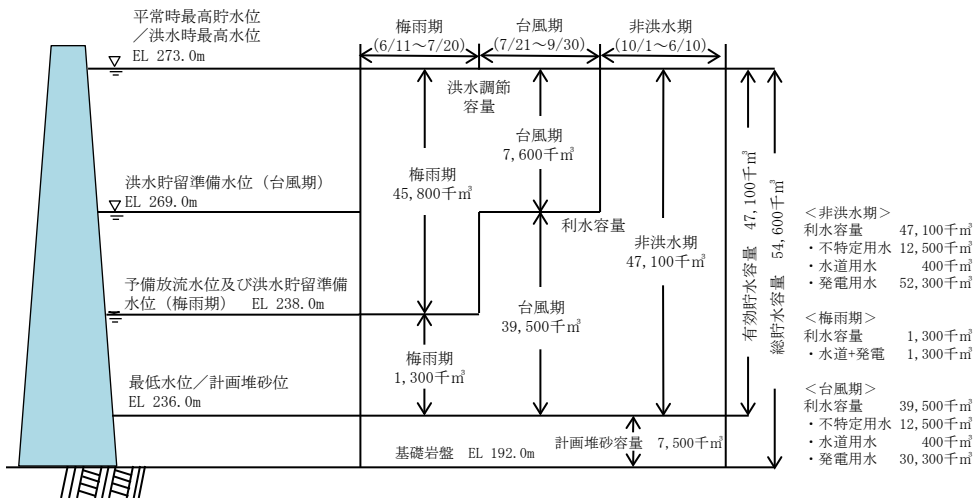


図-3(3) 松原ダム容量配分図

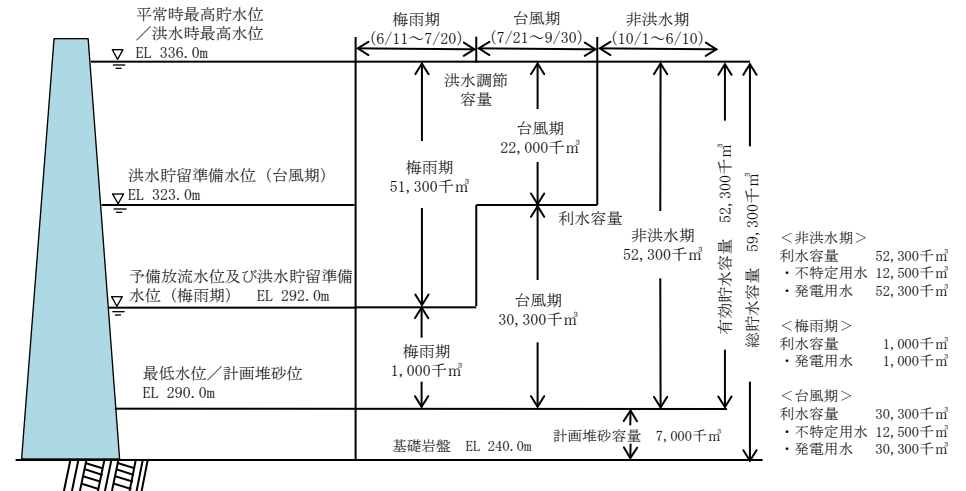


図-3(4) 下笠ダム容量配分図

ダム・堰の容量配分（２）

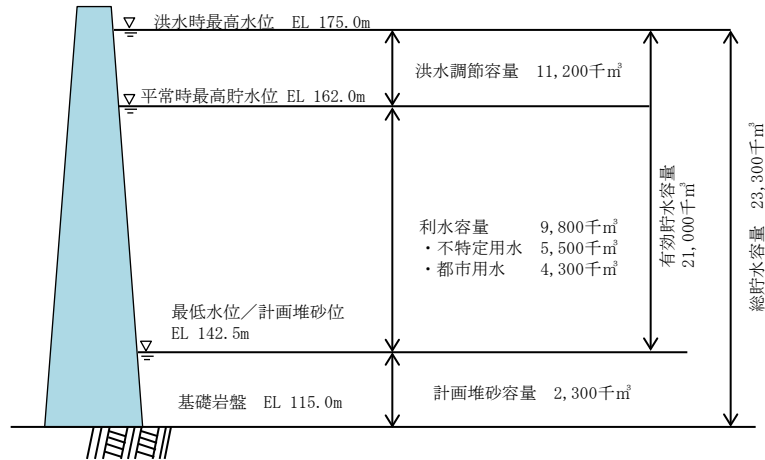


図-3(5) 耶馬溪ダム容量配分図

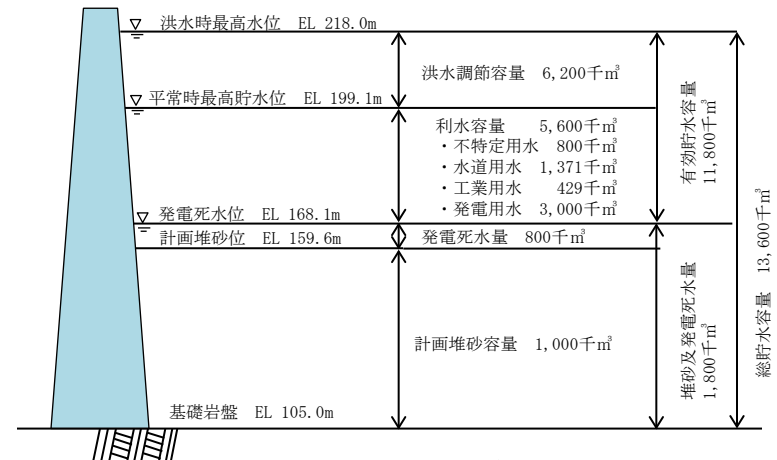


図-3(6) 蔵木ダム容量配分図

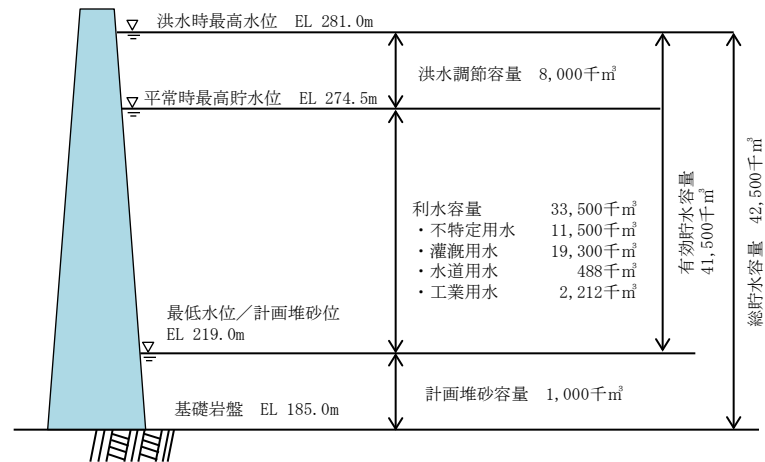


図-3(7) 竜門ダム容量配分図

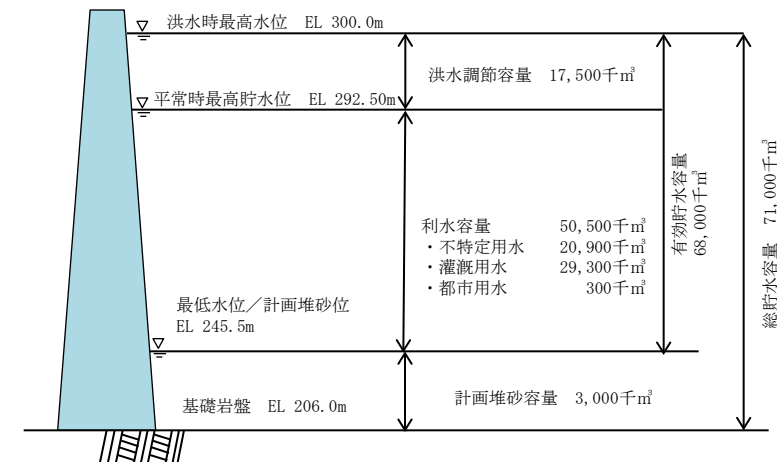


図-3(8) 嘉瀬川ダム容量配分図

ダム・堰の容量配分（3）

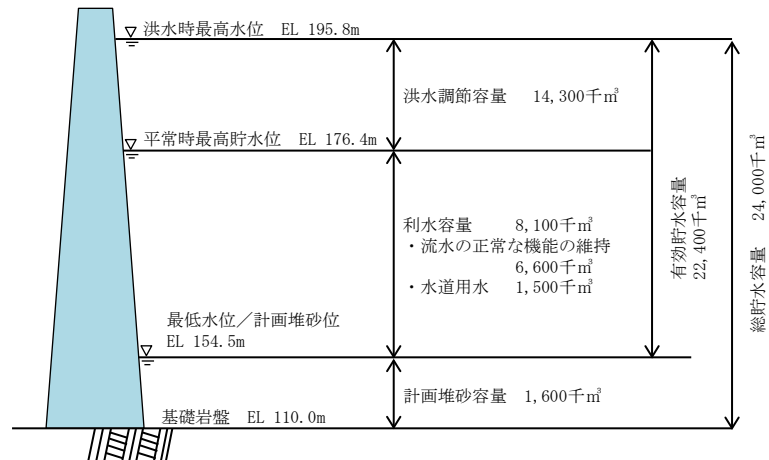


図-3(9) 大分川ダム容量配分図

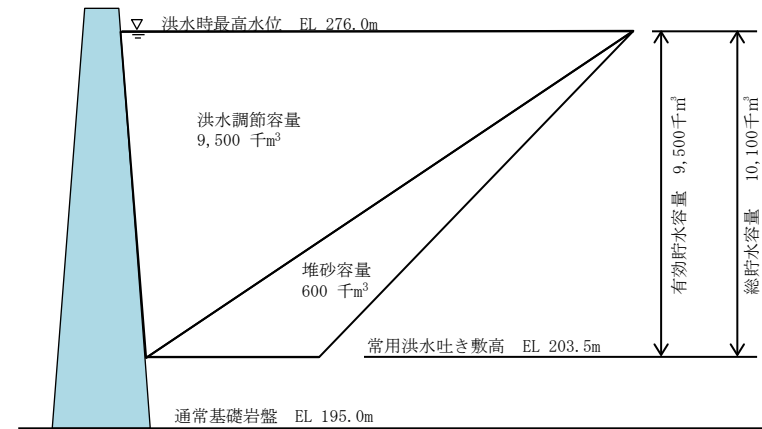


図-3(10) 阿蘇立野ダム容量配分図

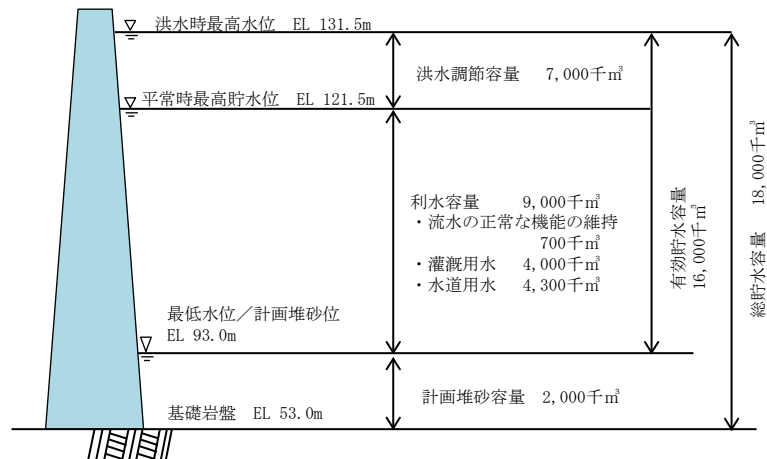


図-3(11) 寺内ダム容量配分図

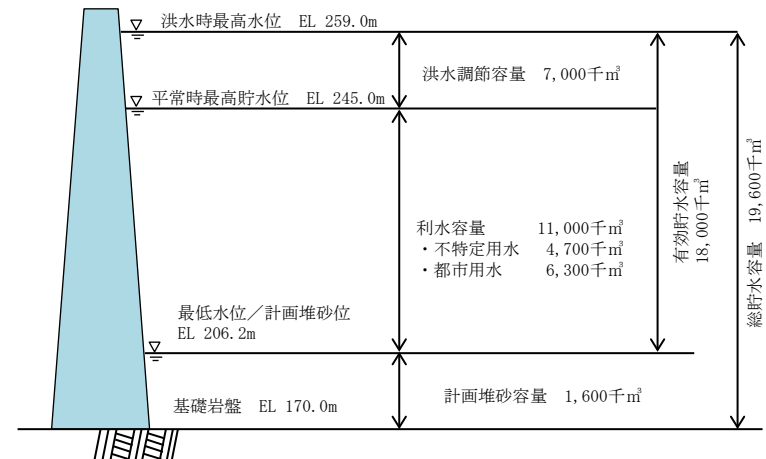


図-3(12) 大山ダム容量配分図

ダム・堰の容量配分（４）

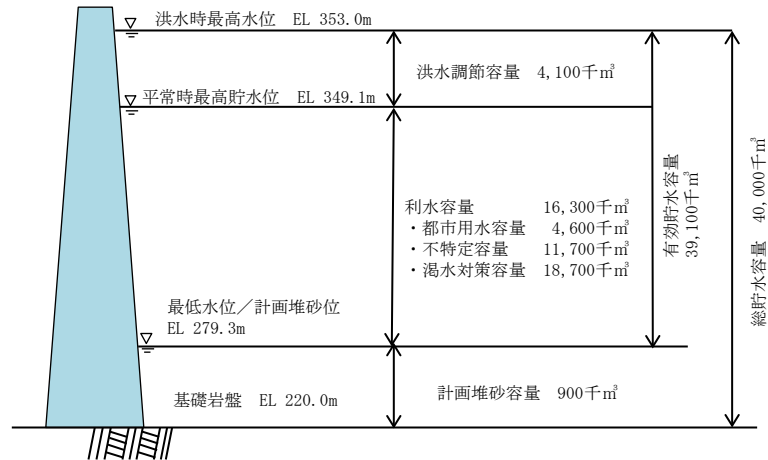


図-3(13) 小石原川ダム容量配分図

ダム・堰の容量配分（４）

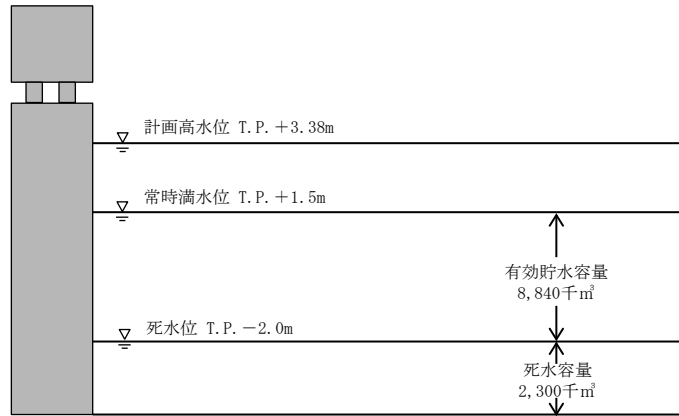


図-3(14) 遠賀川河口堰容量配分図

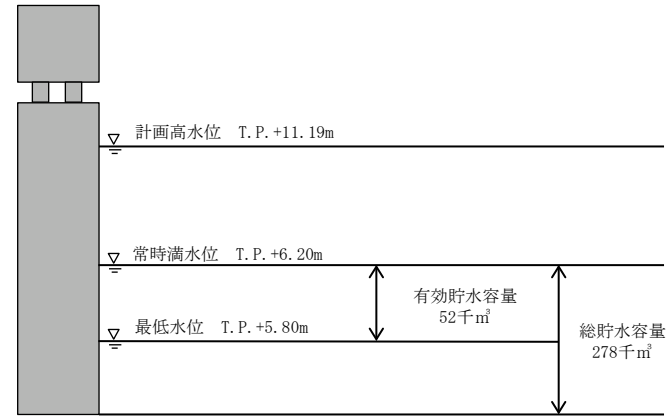


図-3(15) 平成大堰容量配分図

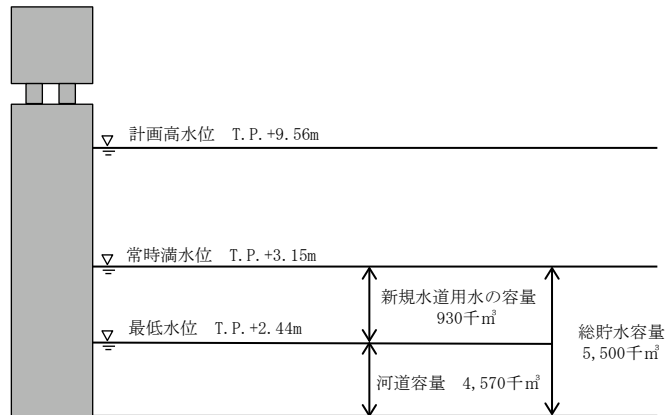


図-3(16) 筑後大堰容量配分図

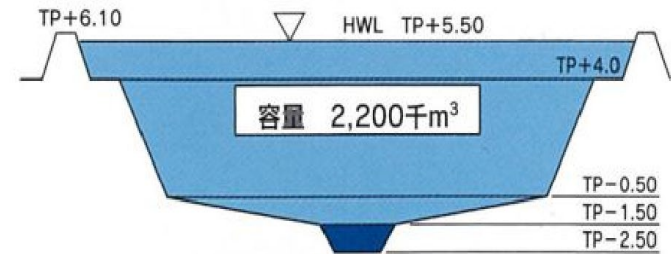


図-3(17) 巨勢川調整池断面図

貯水池運用 (1)

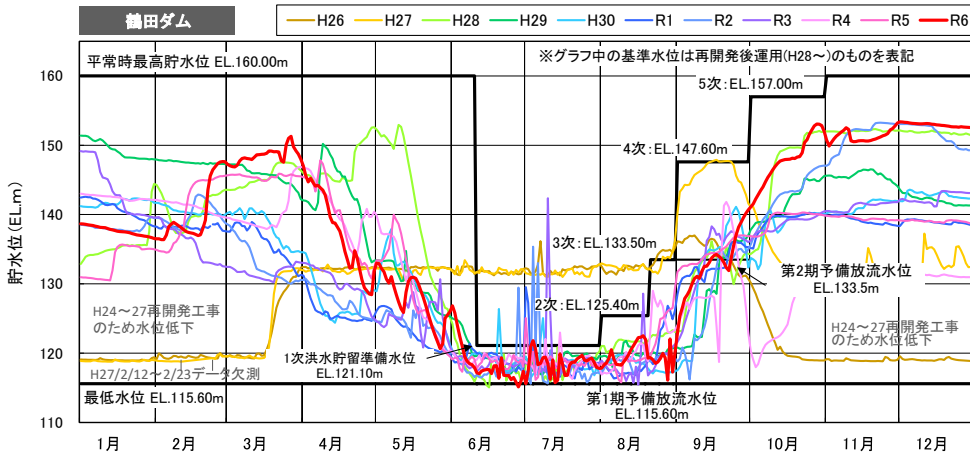


図-4(1) 鶴田ダム貯水池運用図

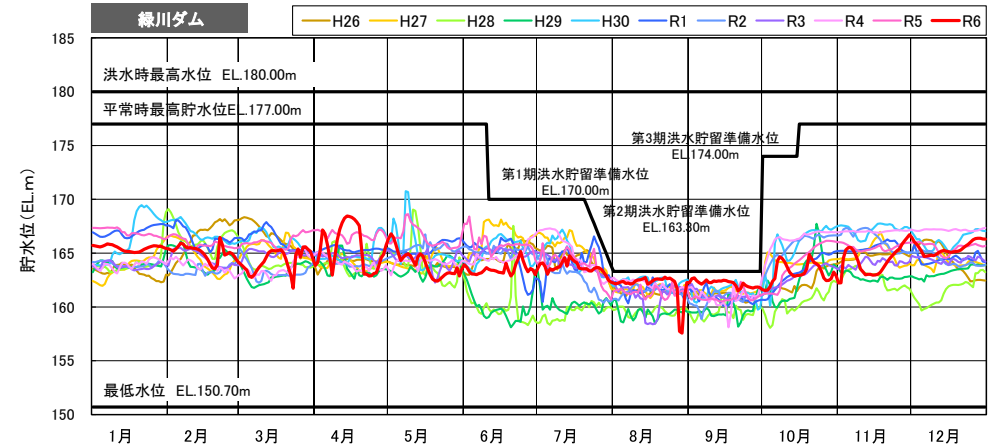


図-4(2) 緑川ダム貯水池運用図

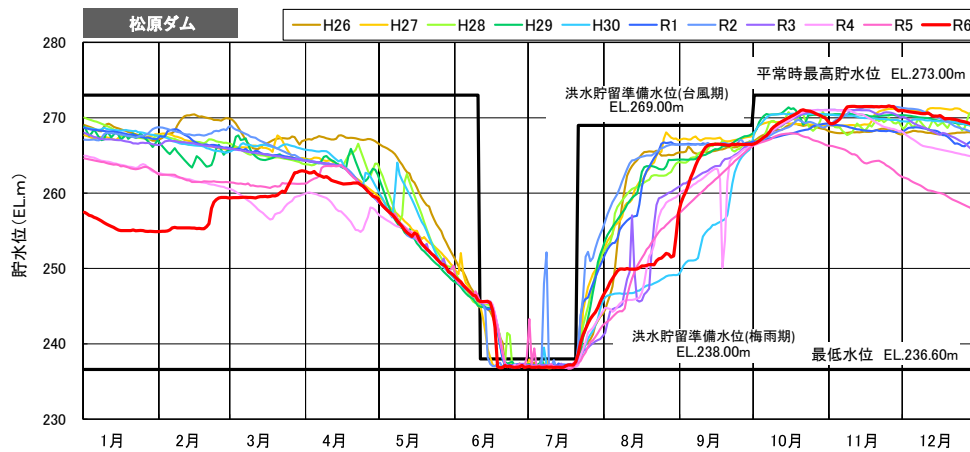


図-4(3) 松原ダム貯水池運用図

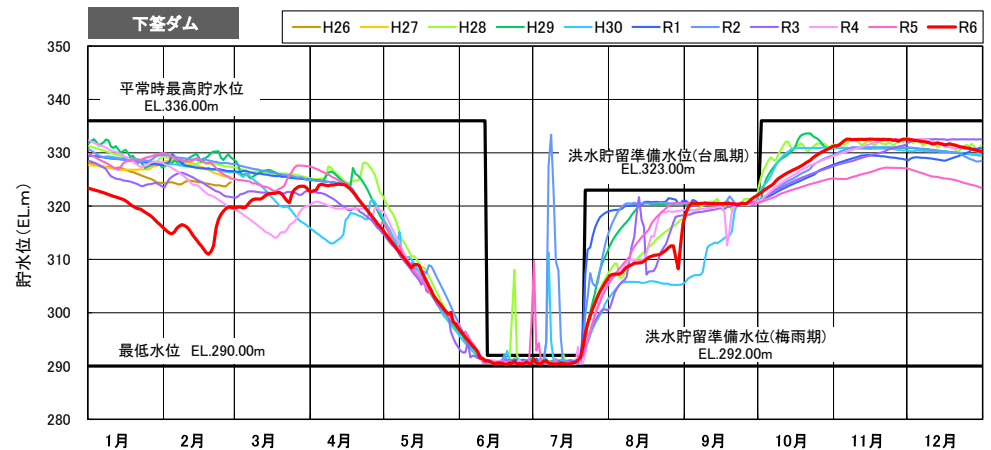


図-4(4) 下笠ダム貯水池運用図

貯水池運用（２）

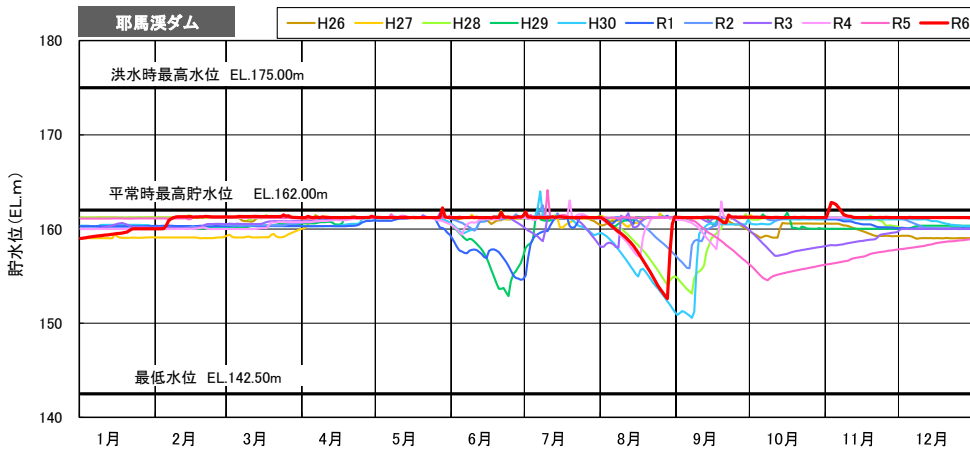


図-4(5) 耶馬溪ダム貯水池運用図

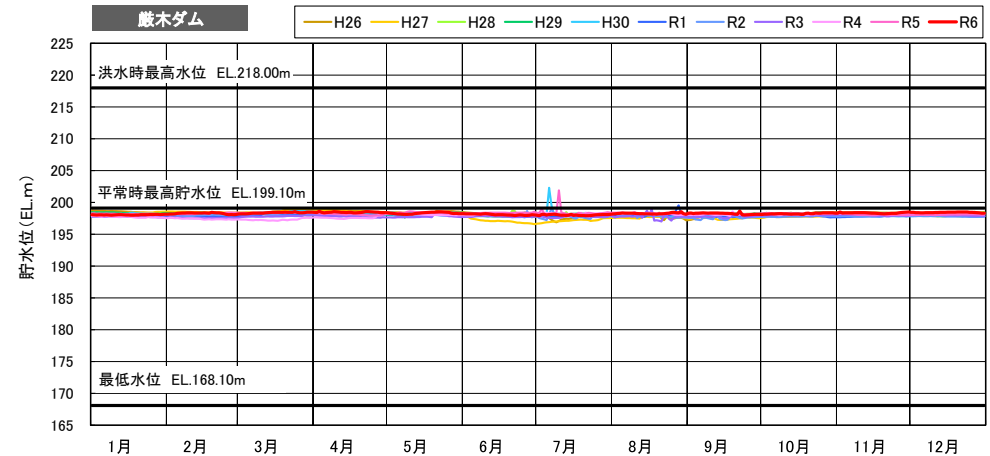


図-4(6) 巖木ダム貯水池運用図

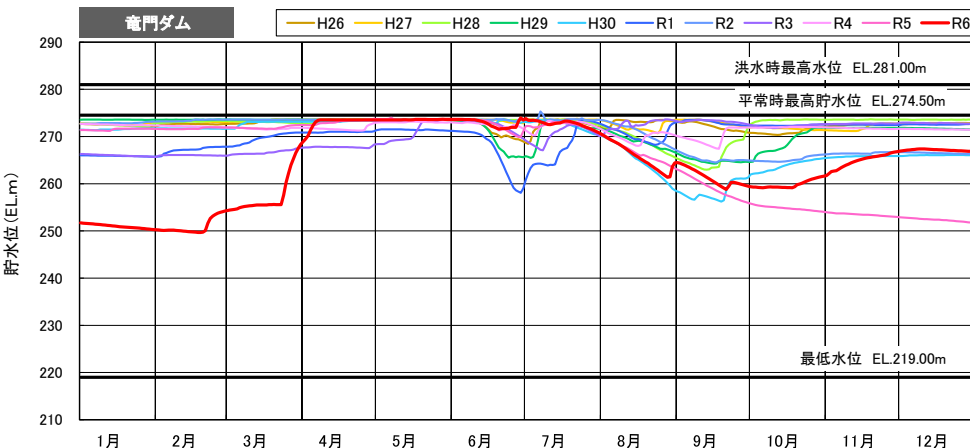


図-4(7) 竜門ダム貯水池運用図

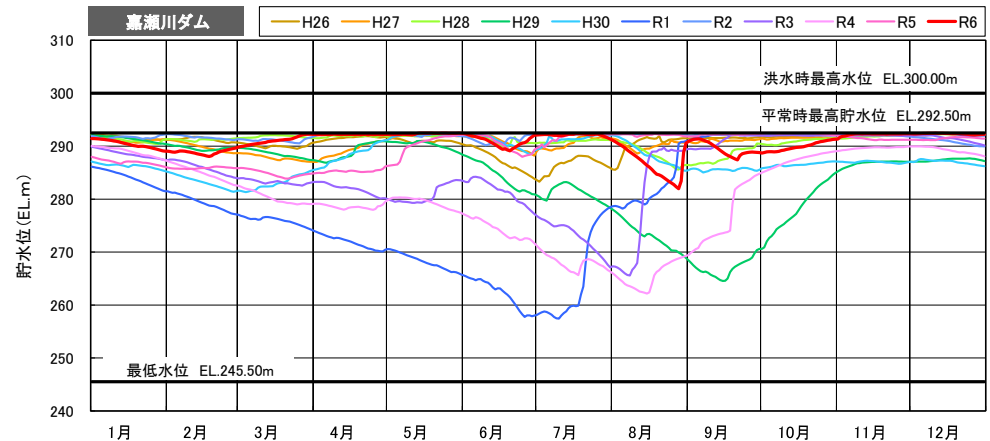


図-4(8) 嘉瀬川ダム貯水池運用図

貯水池運用（3）

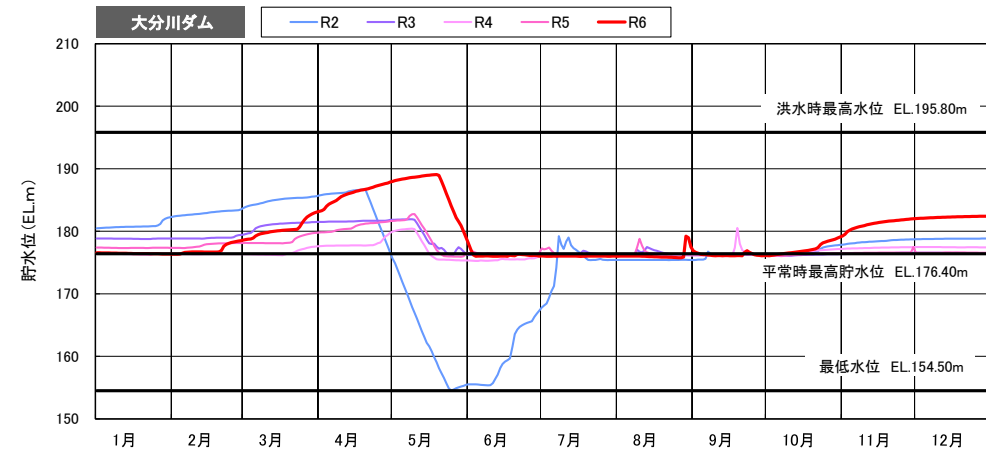


図-4(9) 大分川ダム貯水池運用図

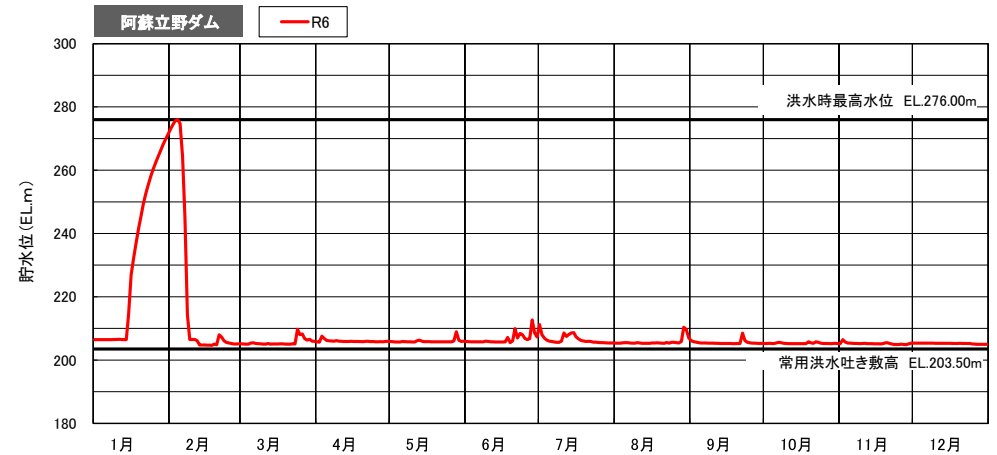


図-4(10) 阿蘇立野ダム貯水池運用図

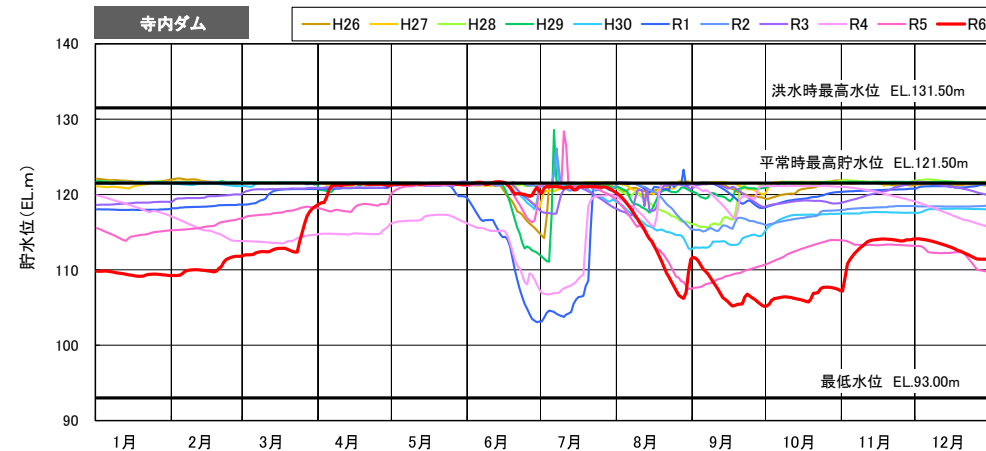


図-4(11) 寺内ダム貯水池運用図

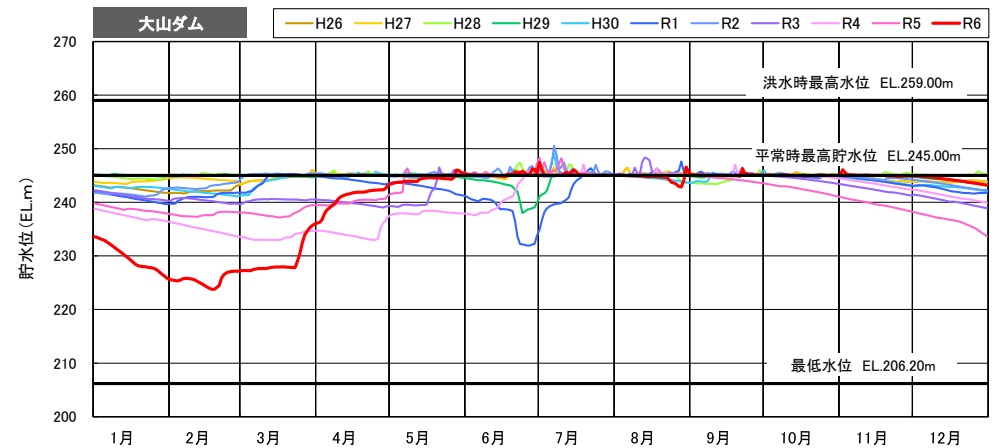


図-4(12) 大山ダム貯水池運用図

貯水池運用（４）

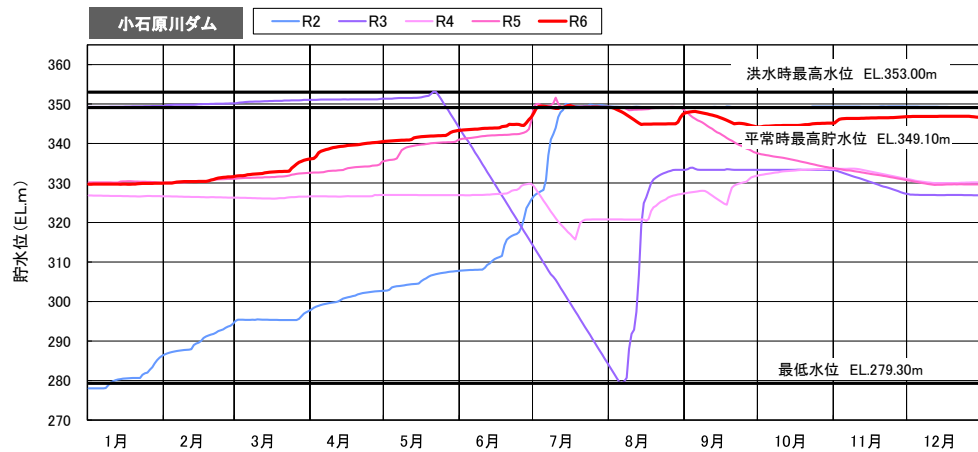


図-4(13) 小石原川ダム貯水池運用図

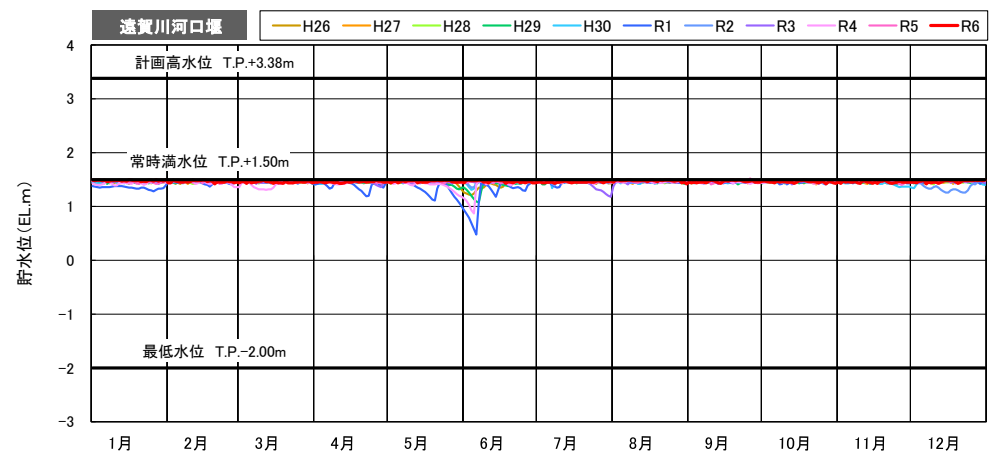


図-4(14) 遠賀川河口堰貯水池運用図

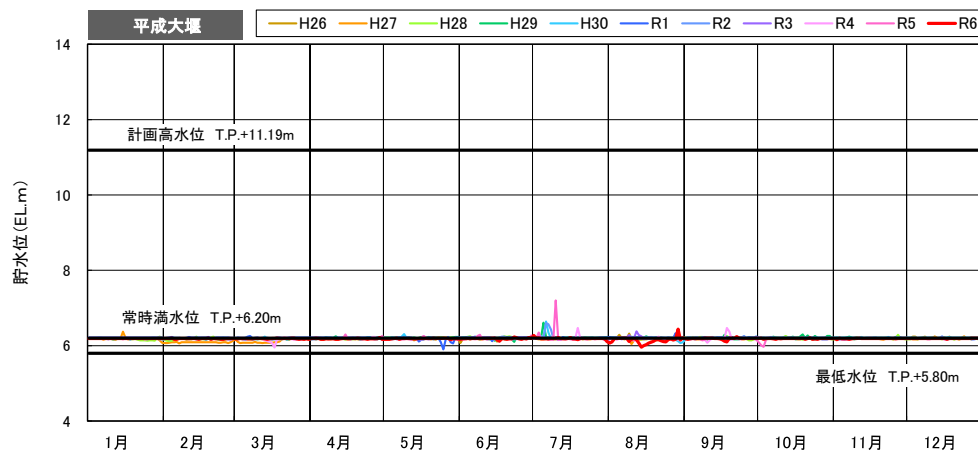


図-4(15) 平成大堰貯水池運用図

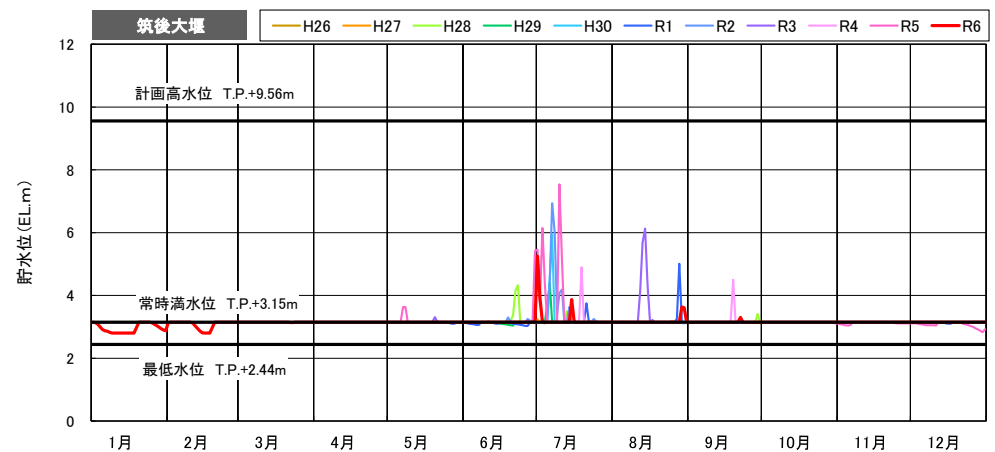
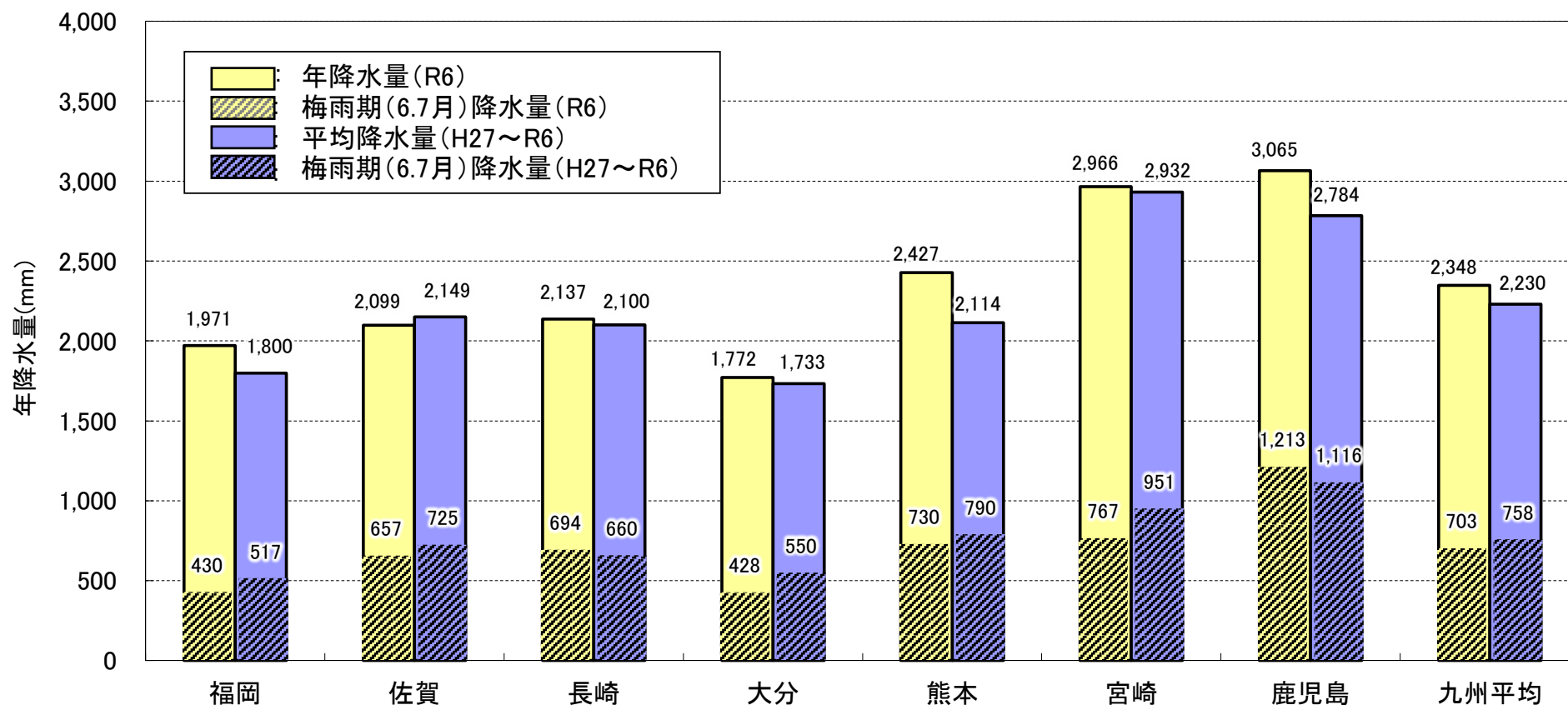


図-4(16) 筑後大堰貯水池運用図

気象（１）九州地方の年降水量

■ 年降水量及び梅雨期降水量は、佐賀県を除き、至近10年平均値（H27～R6）を上回った。
特に熊本県と鹿児島県は、至近10年平均値（H27～R6）の1.1倍と多雨であった。



注) 年間観測地点は各県の県庁所在地の気象台
平均降水量は至近10年平均値（H27～R6） 出典：気象庁HP

図-5 九州地方の年降水量

気象（２） 台風の発生状況

- 令和6年の台風発生数は平年より多い26個であった（平年値25.1個）。
- この内、8月に九州に接近した台風10号は、非常に強い勢力で西日本を横断した。

■R6年 台風経路図

第1号	5月25日～5月31日
第2号	5月31日～5月31日
第3号	7月20日～7月27日
第4号	7月21日～7月23日
第5号	8月8日～8月12日
第6号	8月11日～8月13日
第7号	8月12日～8月19日
第8号	8月13日～8月14日
第9号	8月18日～8月21日
第10号	8月22日～8月30日
第11号	9月1日～9月8日
第12号	9月5日～9月6日
第13号	9月10日～9月17日
第14号	9月15日～9月21日
第15号	9月19日～9月19日
第16号	9月24日～9月26日
第17号	9月27日～10月2日
第18号	9月28日～10月3日
第19号	10月6日～10月11日
第20号	10月22日～10月28日
第21号	10月25日～11月1日
第22号	11月3日～11月12日
第23号	11月9日～11月14日
第24号	11月9日～11月19日
第25号	11月12日～11月16日
第26号	12月22日～12月25日

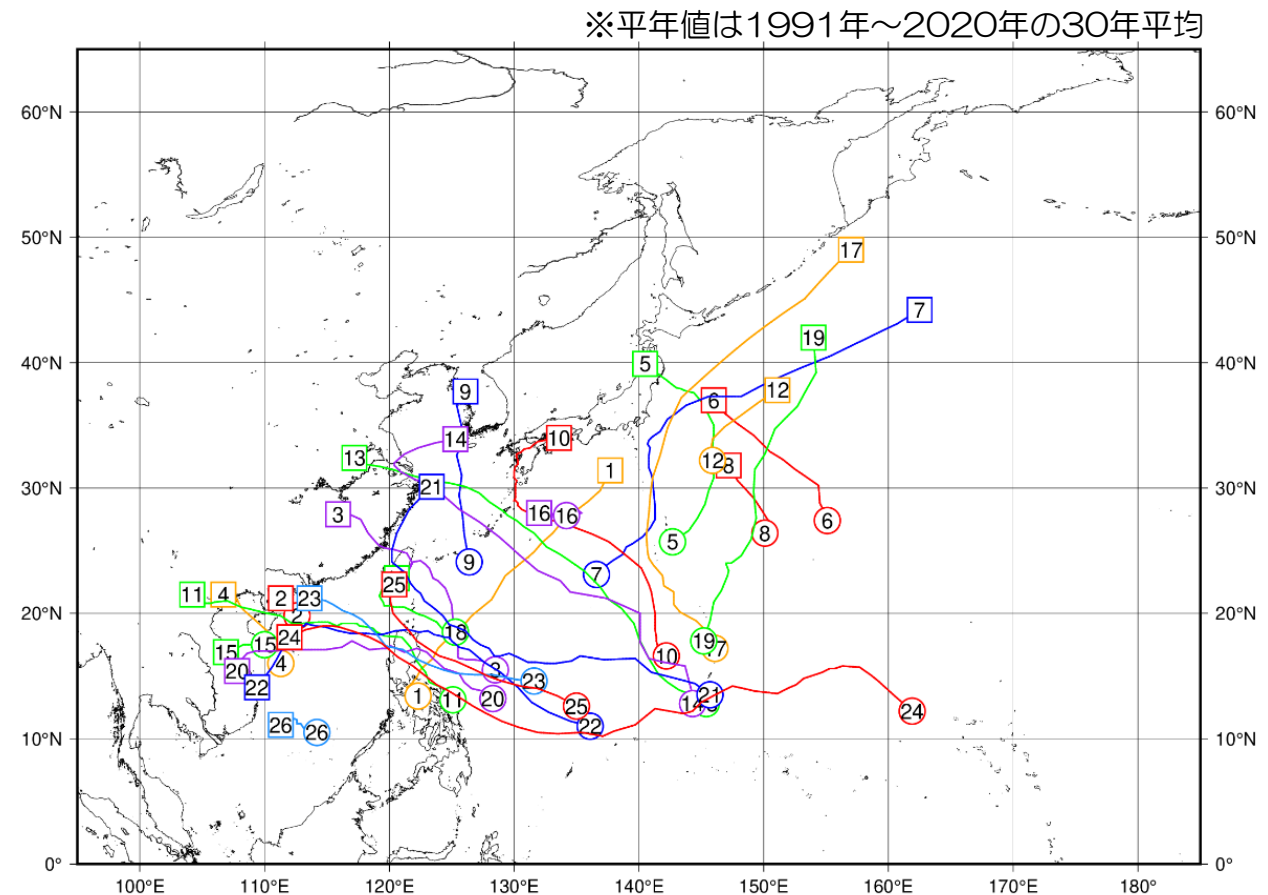


図-6 令和6年発生台風の経路図

出典：気象庁HP資料より作成

気象（３）流域平均年降水量・年総流入量

流域平均年降水量

流域平均年降水量は、各ダム等流域で至近10年間平均値（H27～R6）を概ね上回った。

※佐賀導水路は佐賀地方気象台の気象観測資料を使用。
※大分川ダム、小石原川ダムはR2年度から管理開始のため、平均値はR2～R5で算出。
※その他は、施設上流域の観測所による流域平均雨量を使用。

流域平均年降水量

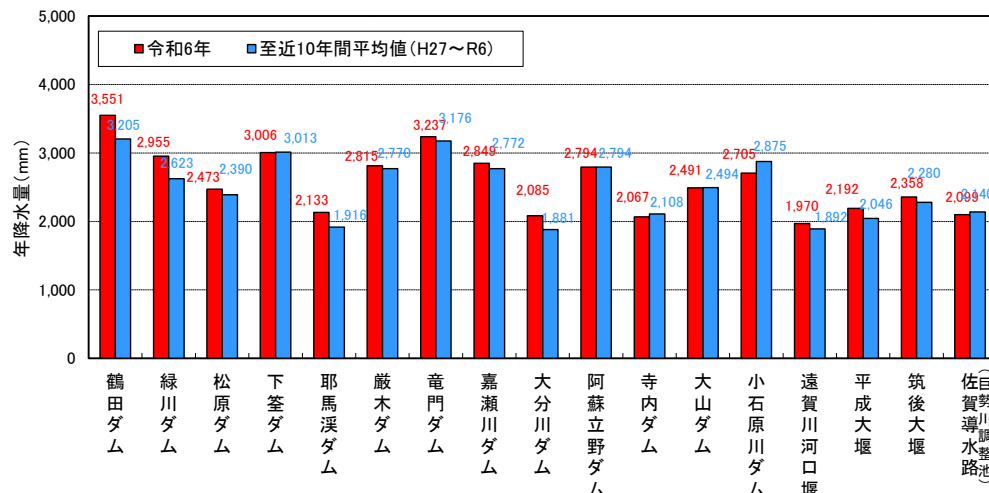


図-7 各ダム・堰等の流域平均年降水量

年総流入量

年総流入量は、各ダム等で至近10年平均値（H27～R6）と概ね同程度であった。

※筑後大堰の値は「瀬ノ下」地点である。
※佐賀導水路は巨勢川調整池に貯留した量を記載している。
※大分川ダム、小石原川ダムはR2年度から管理開始のため、平均値はR2～R6で算出。
※阿蘇立野ダムは、R6.2.9～10が欠測となっているため、算出していない。

年総流入量

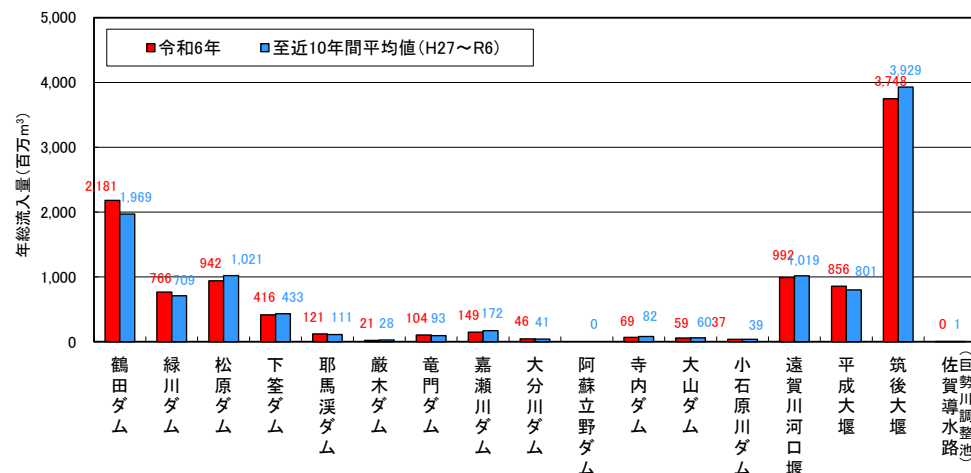


図-8 各ダム・堰等地点の年総流入量

気象（４） 24時間最大雨量の経年変化

■ 24時間最大雨量（流域平均雨量）は、多くのダムで増加傾向にある。特に、鶴田ダムや耶馬溪ダム、巖木ダム、嘉瀬川ダム、遠賀川河口堰、平成大堰で顕著な傾向がみられる。

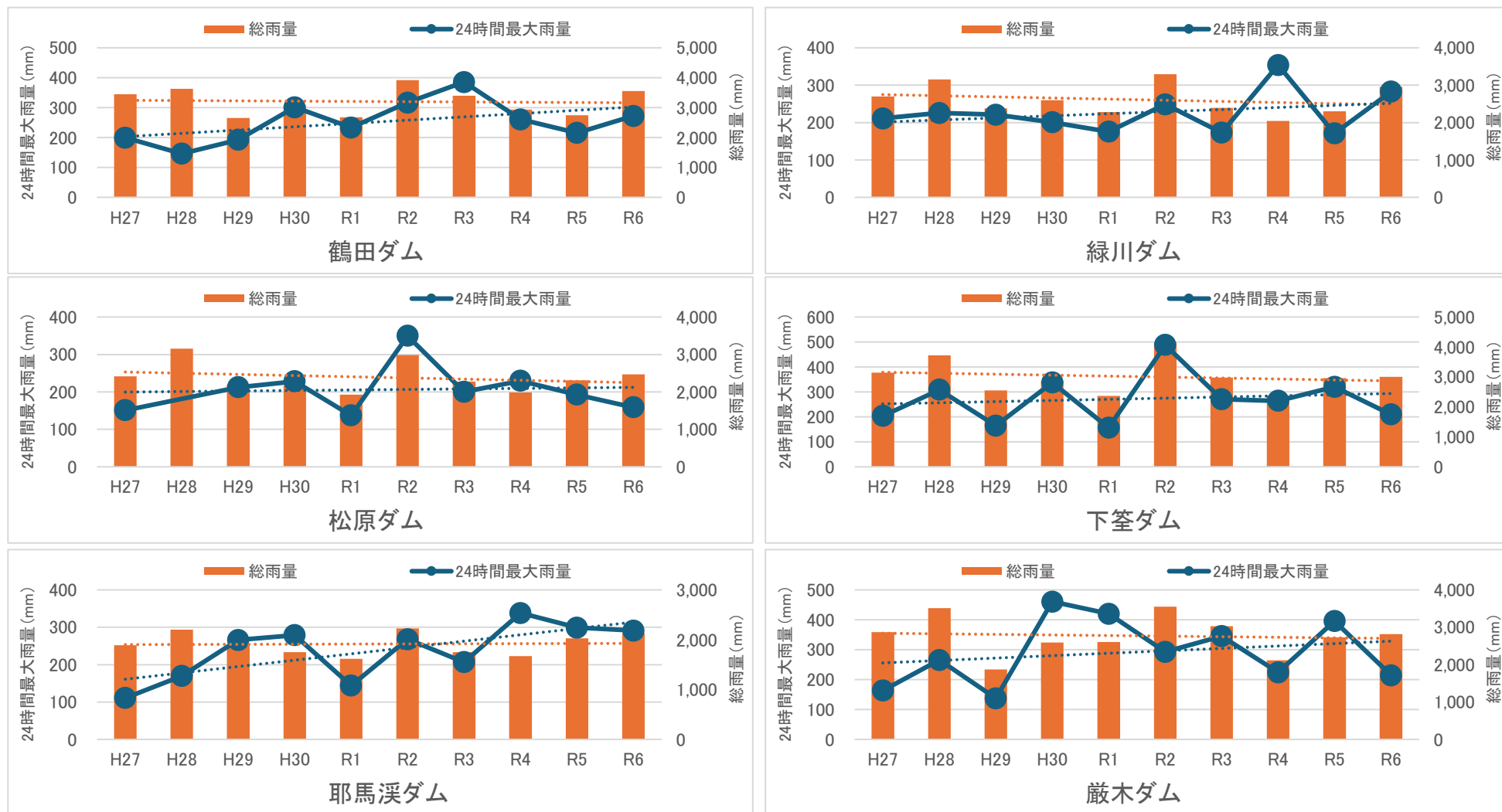


図-9(1) 総雨量と24時間最大雨量の経年変化

※雨量データは流域平均雨量

気象（５） ２４時間最大雨量の経年変化

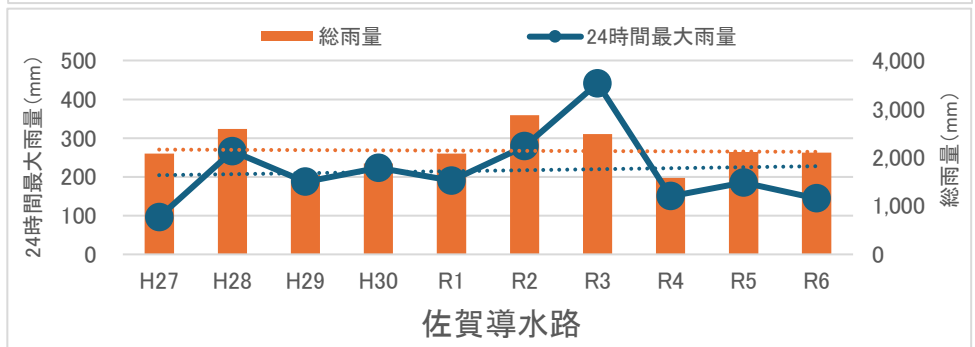
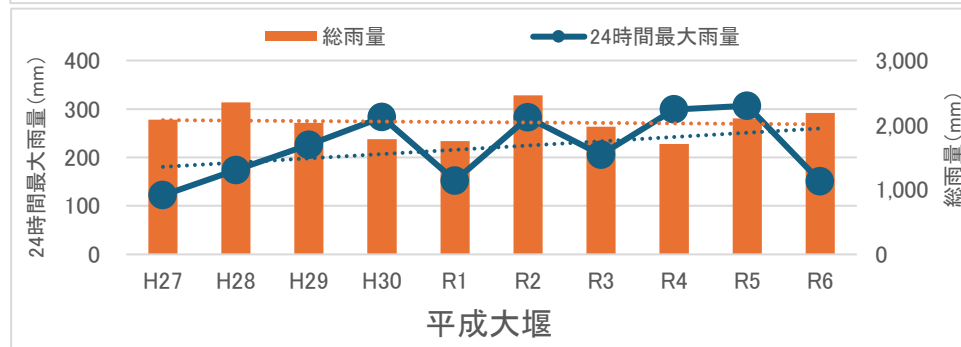
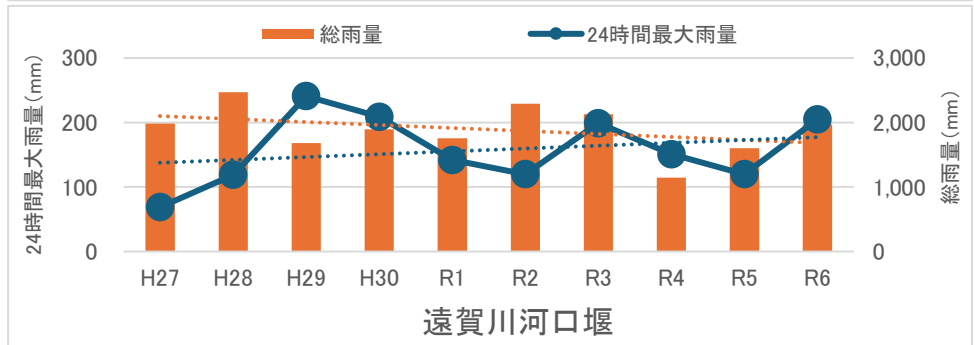
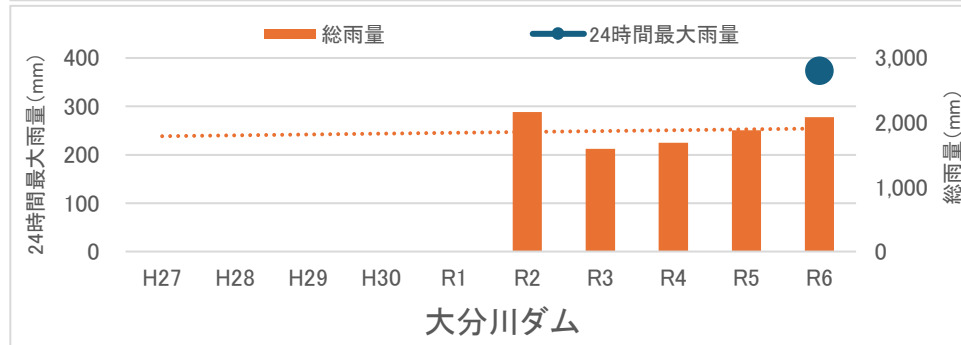
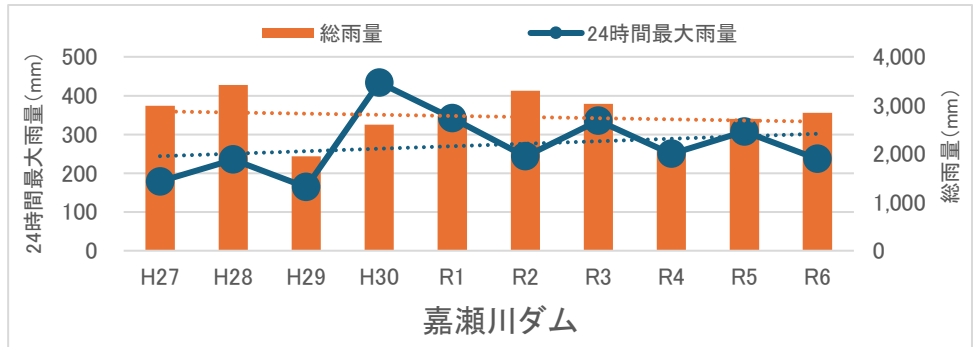
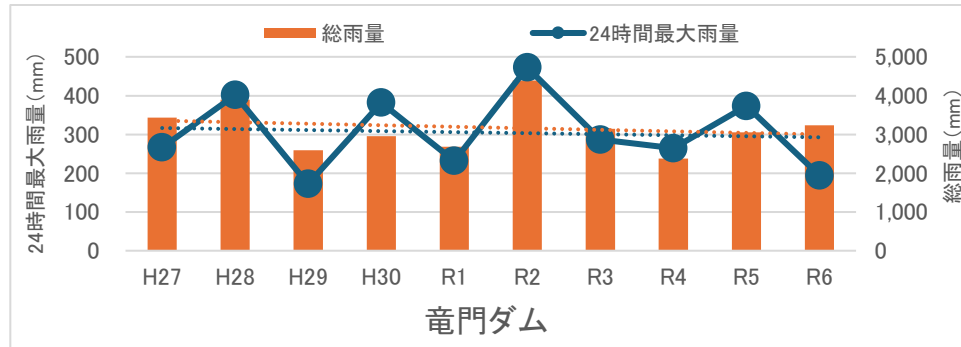
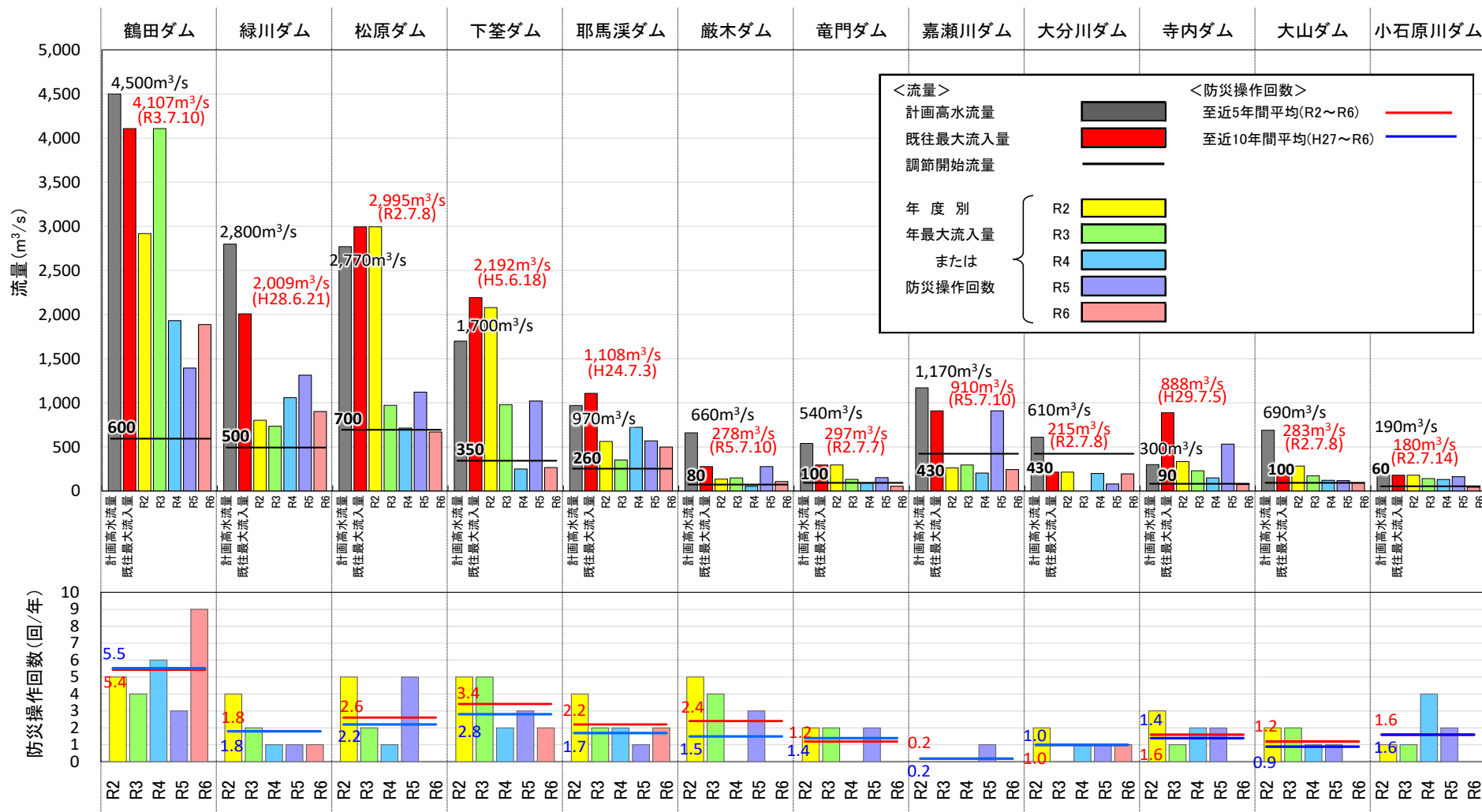


図-9(2) 総雨量と24時間最大雨量の経年変化

※雨量データは佐賀導水路以外は流域平均雨量
(佐賀導水路は金立観測所雨量)

防災操作等（１）防災操作実績

■ 令和6年度は、12ダム中5ダムで防災操作が行われた。



※大分川ダム、小石原川ダムの至近5年及び10年間平均はR2～R6を表記。

図-10 年最大流入量と防災操作回数

防災操作等（２）堰全開操作実績

■令和6年度は、3堰中2堰で防災操作が行われた。

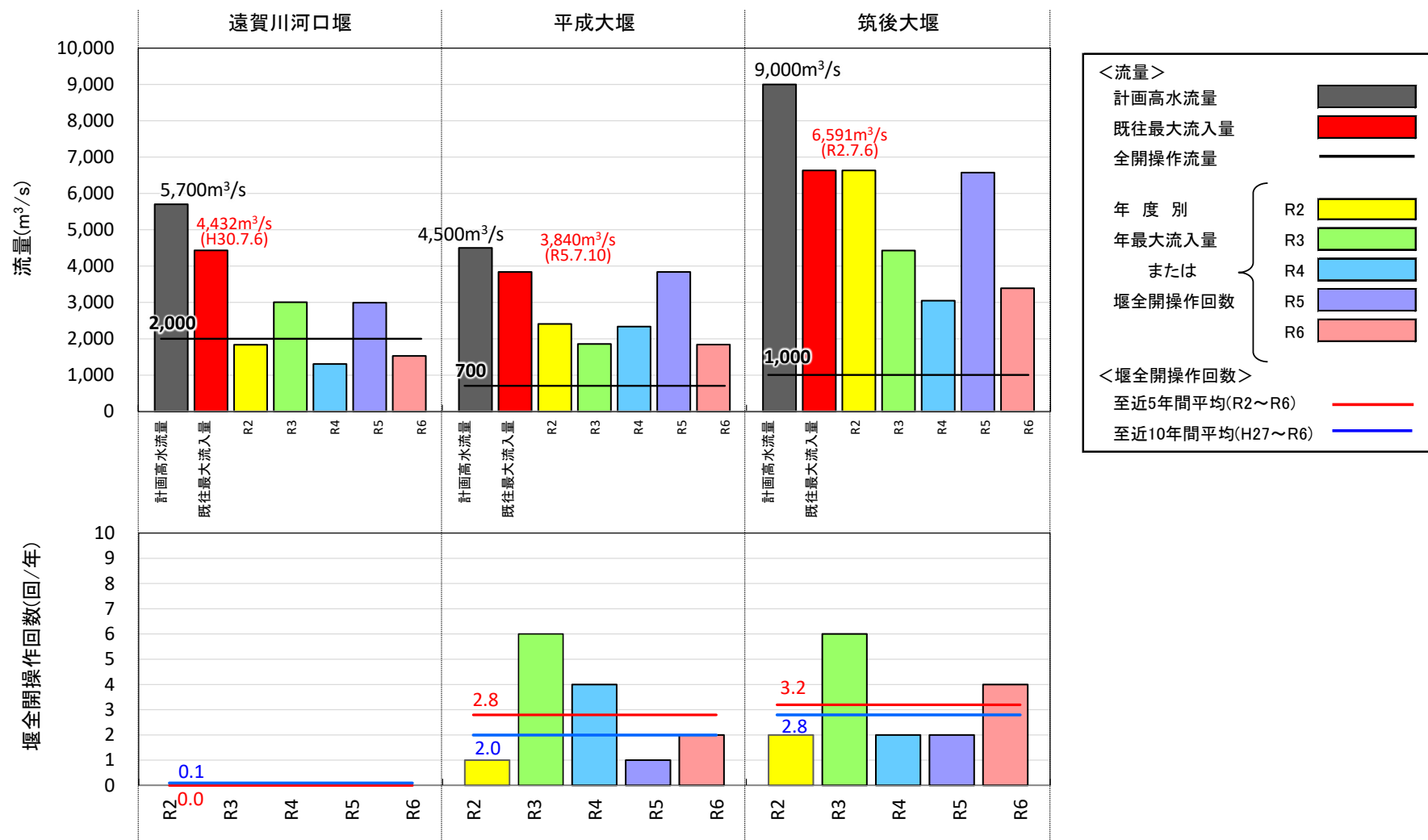


図-11 年最大流入量と堰全開操作回数

防災操作等（３）ダム防災操作

- 6月～7月の梅雨前線に伴う大雨では、3ダムで防災操作が行われた。
- 8月の台風10号による大雨では、3ダムで事前放流を実施し、4ダムで防災操作が行われた。

表-2 ダム防災操作実績

ダム名	計画高水 流量 (m³/s)	ダム防災操作 実施日		要因	最大流入量 (m³/s) ①	最大 ダム流下量 (放流量) (m³/s)	最大流入時 ダム流下量 (放流量) (m³/s)②	貯留量 (m³/s) ③=①-②	総雨量 (mm)	降雨 継続時間 (h)	下流河川 水位低減 効果 (cm)	事前 放流 実施
鶴田ダム	4,500	①	5/28	前線	1,108	862	795	313	206	35	33	
		②	6/20～6/21	梅雨前線	1,439	1,036	994	445	722	294	55	
		③	6/24	梅雨前線	1,136	874	784	352			45	
		④	7/1	梅雨前線	673	637	636	36			9	
		⑤	7/12	梅雨前線	1,654	1,126	849	804	387	129	128	
		⑥	7/14	梅雨前線	939	778	770	168			34	
		⑦	7/15	梅雨前線	1,289	957	851	438			39	
		⑧	8/29	台風10号	1,884	1,244	1,063	821	429	88	94	
		⑨	9/22	前線	611	604	593	18	109	36	0	
緑川ダム	2,800	①	8/29	台風10号	902	770	760	142	399	87	23	●
松原ダム	2,770		8/27	台風10号	防災操作実績なし							●
下笠ダム	1,700	①	7/1	梅雨前線	398	348	326	73	517	242	-	
		梅雨前線		419	349	349	71					
			8/27	台風10号	防災操作実績なし							●
耶馬溪ダム	970	①	7/1	梅雨前線	404	258	259	144	196	53	-	
		②	8/29	台風10号	404	257	225	179	359	74	-	
厳木ダム	660	防災操作実績なし										
竜門ダム	540	防災操作実績なし										
嘉瀬川ダム	2,200	防災操作実績なし										
大分川ダム	610	①	8/29	台風10号	196	63	18	178	493	66	30	
阿蘇立野ダム	3,400	防災操作実績なし										
寺内ダム	300	防災操作実績なし										
大山ダム	690	防災操作実績なし										
小石原川ダム	660	防災操作実績なし										

防災操作等（４）堰全開操作実績

■ 6月～9月の梅雨前線や台風等に伴う大雨では、2堰で全開操作が行われた。

表-3 堰全開操作操作実績

ダム名	計画高水 流量 (m^3/s)	堰全開操作 実施日	要因	最大流入量 (m^3/s) ①	最大 ダム流下量 (放流量) (m^3/s)	最大流入時 ダム流下量 (放流量) (m^3/s) ②	貯留量 (m^3/s) ③=①-②	総雨量 (mm)	降雨 継続時間 (h)
遠賀川河口堰	5,700	全開操作実績なし							
平成大堰	4,500	① 6/30	梅雨前線	1,840	—	—	全開操作	96	—
		② 7/10	台風10号	1,352	—	—	全開操作	269	—
筑後大堰	9,000	① 7/1～7/2	前線	3,392	—	—	全開操作	165	—
		② 7/15	前線	2,035	—	—	全開操作	105	—
		③ 8/29～8/30	台風10号	1,862	—	—	全開操作	259	—
		④ 9/22	前線	1,538	—	—	全開操作	142	—

防災操作等（５）佐賀導水路の操作、ポンプ稼動実績

- 4月の前線、5月～7月の梅雨前線に伴う大雨、11月の台風21号で、巨勢川調整池で6回の操作が行われた。

表-4 佐賀導水路巨勢川調整池の操作実績

年	操作 実施日	要因	最大放流量 (m^3/s)	東溯流量 (m^3/s)	ポンプ稼動時間 (時間)	最大貯水量 (千 m^3)	総雨量 (mm)
令和6年	4月3日	前線	26	22.34	5.2	72	-
	5月26日～5月28日	梅雨前線	26	18.74	24.8	40	-
	6月20日～6月21日	梅雨前線	26	14.85	4.4	117	-
	7月1日～7月2日	梅雨前線	26	17.69	22.1	94	-
	7月14日～7月15日	梅雨前線	26	27.69	43.8	148	-
	11月2日	台風21号	26	23.96	16.6	209	-

- 上記洪水では、佐賀導水路に関連する内水排除ポンプが、合計40回稼動した。

表-5 内水排除施設の稼動実績

施設名	最大排水量 (m^3/s)	合計ポンプ稼動時間 (時間)	稼動回数 (回)
通瀬川ポンプ場	5.0	25.3	3
切通川ポンプ場	10.0	4.0	1
井柳川ポンプ場	5.0	-	-
三本松川ポンプ場	5.0	-	-
馬場川ポンプ場	5.0	32.8	11
中地江川ポンプ場	12.0	61.0	5
巨勢川調整池(焼原系)	4.0	278.7	20

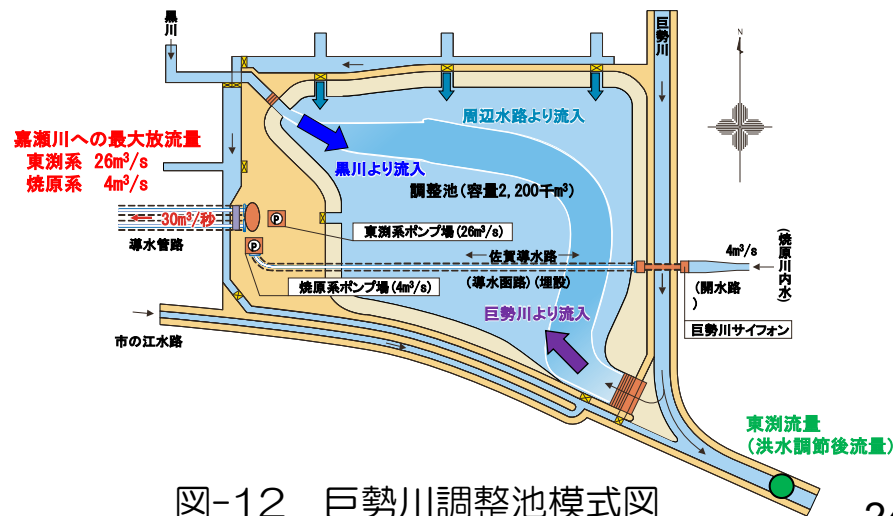


図-12 巨勢川調整池模式図

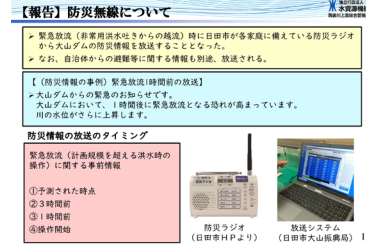
防災操作等（6）防災に関する取組み

1. 水害に強い地域づくりを考える意見交換会

■各ダムにおいて、水害に強い地域づくりや地域の防災力の向上を目的として、洪水時のダム操作方法や住民への情報伝達のあり方等に関する意見交換が行われた。



鶴田ダム



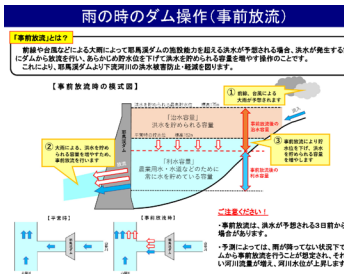
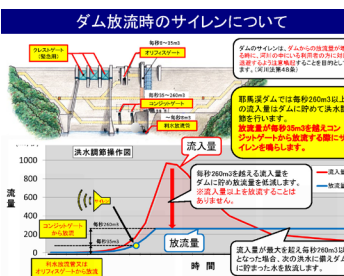
松原・下笠・大山ダム



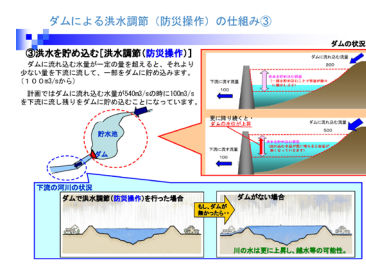
厳木ダム

2. ダム放流連絡会

■各ダムにおいて、出水期前（4～6月）に、ダム下流関係者等を対象に、ダムの目的や防災操作の仕組み、ダム放流時の情報発信や連絡体制等を確認するダム放流連絡会や説明会が行われた。



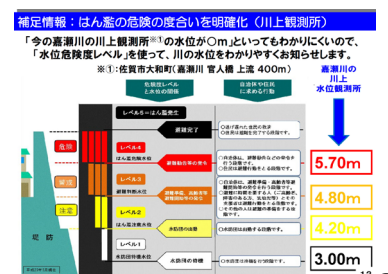
耶馬溪ダム



竜門ダム



嘉瀬川ダム



利水補給 利水用途別利用実績

- 鶴田ダム、緑川ダム、松原ダム、下釜ダムでは、主に発電に利用されている。
- 耶馬溪ダム、巖木ダム、竜門ダム、嘉瀬川ダム、大分川ダム、大山ダム、寺内ダム・小石原川ダム・江川ダムでは、上水・機能維持・灌漑・上水等の利水補給が行われている。
- 佐賀導水路では上水に利用されている。
- 筑後大堰では主に上水・灌漑用水が取水利用されている。遠賀川河口堰と平成大堰では上水・工水・灌漑用水に取水利用されている。
- 筑後川水系において、2月17日から4月24日にかけて上水の取水制限を実施した。

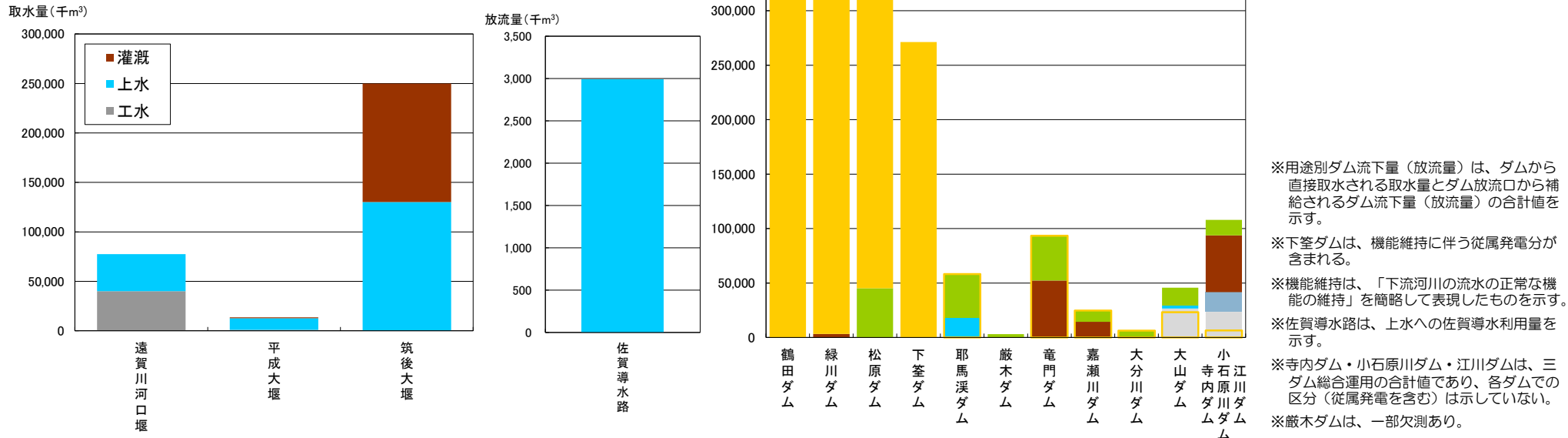
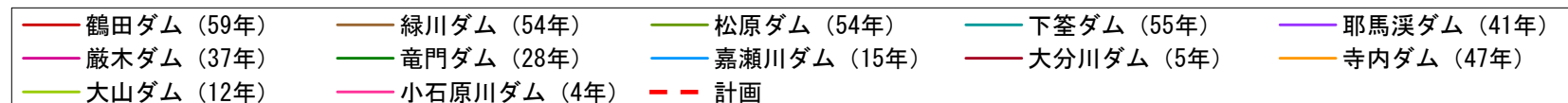


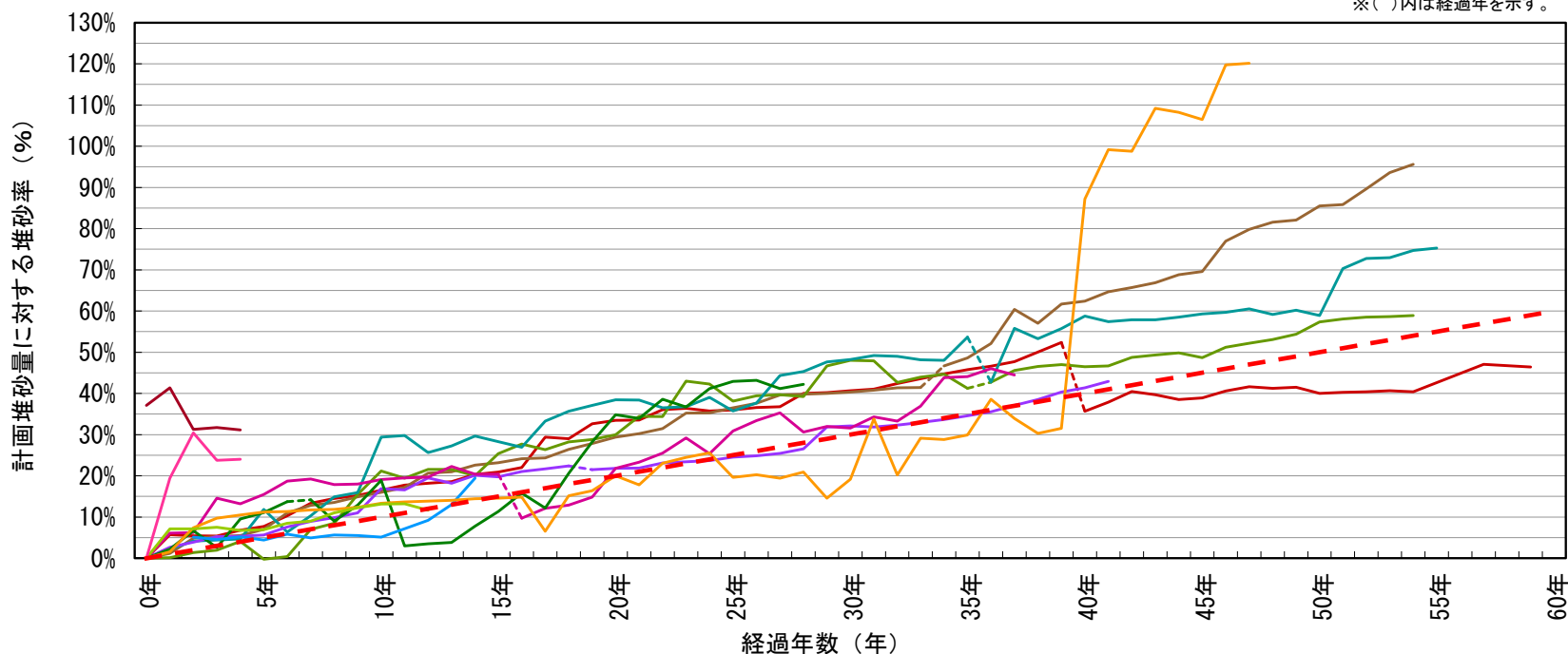
図-13 用途別取水量（堰）、用途別ダム流下量（放流量）（ダム・佐賀導水路）

堆 砂（１） ダムの堆砂状況

- 緑川ダム、松原ダム、下笠ダム、巖木ダム、竜門ダム、寺内ダム及び小石原川ダムでは、計画より早く堆砂が進んでいる。
- 寺内ダムでは、H29九州北部豪雨において大量の土砂を捕捉したため堆砂率が急上昇した。



※（ ）内は経過年を示す。



※堆砂測量結果は、試験湛水開始後のデータを示す。

※鶴田ダムは、H17に堆砂量が大幅に減少しているが、堆砂測量方法及び算出方法の変更によるものである。

※破線は測量方法の変更を示す。

※耶馬溪ダムは、H18、鶴田ダムはR2及びR3、嘉瀬川ダムはR3の測量は未実施。

※大分川ダムは、ダム建設中に法面対策として実施した地すべり対策などにより、堆砂率が30%を上回っている。

図-14 各ダムの計画堆砂量に対する堆砂率の状況

堆 砂（２） ダムの堆砂状況

■ 令和6年度時点では、緑川ダムの有効貯水容量内堆砂率が13.6%となっており、他ダムに比べて高くなっている。

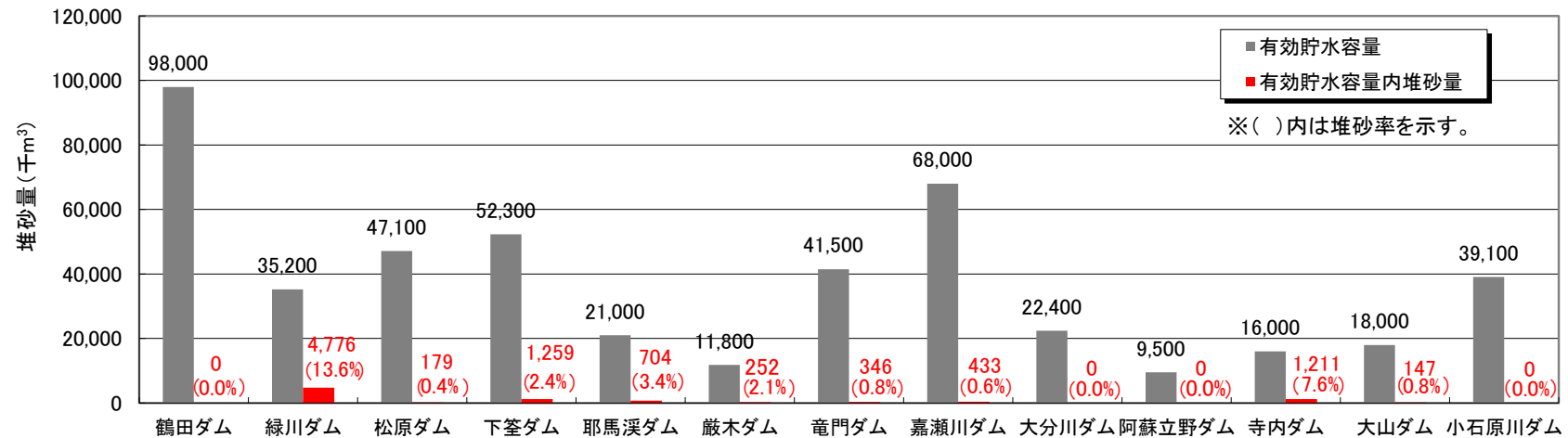


図-15 有効貯水容量内堆砂量及び堆砂率

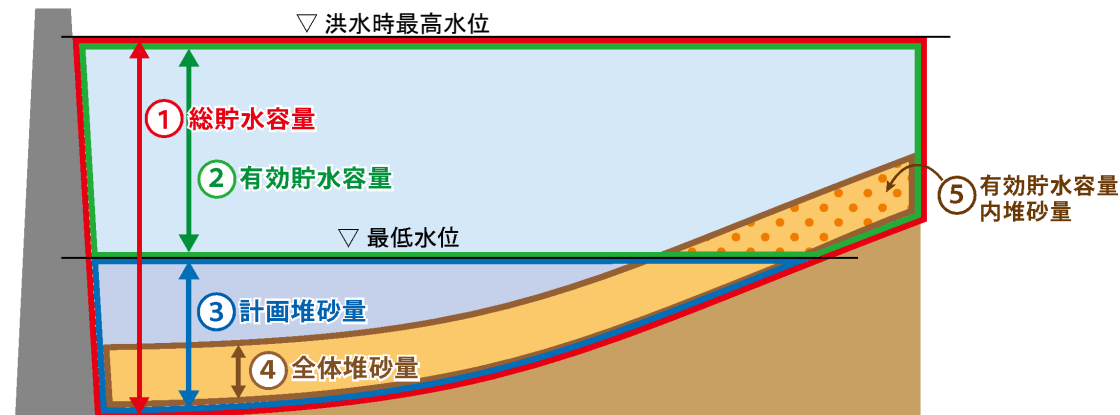


図-16 ダム断面図（堆砂量について）

水 質（１） COD75%値及びBOD75%値

- 令和6年のCOD75%値は、鶴田ダムを除いて類型指定されているダムで環境基準を満足していた。
- 令和6年の河川（堰）のBOD75%値は、遠賀川河口堰では環境基準を上回っていたが、平成大堰および筑後大堰では環境基準を満足していた。

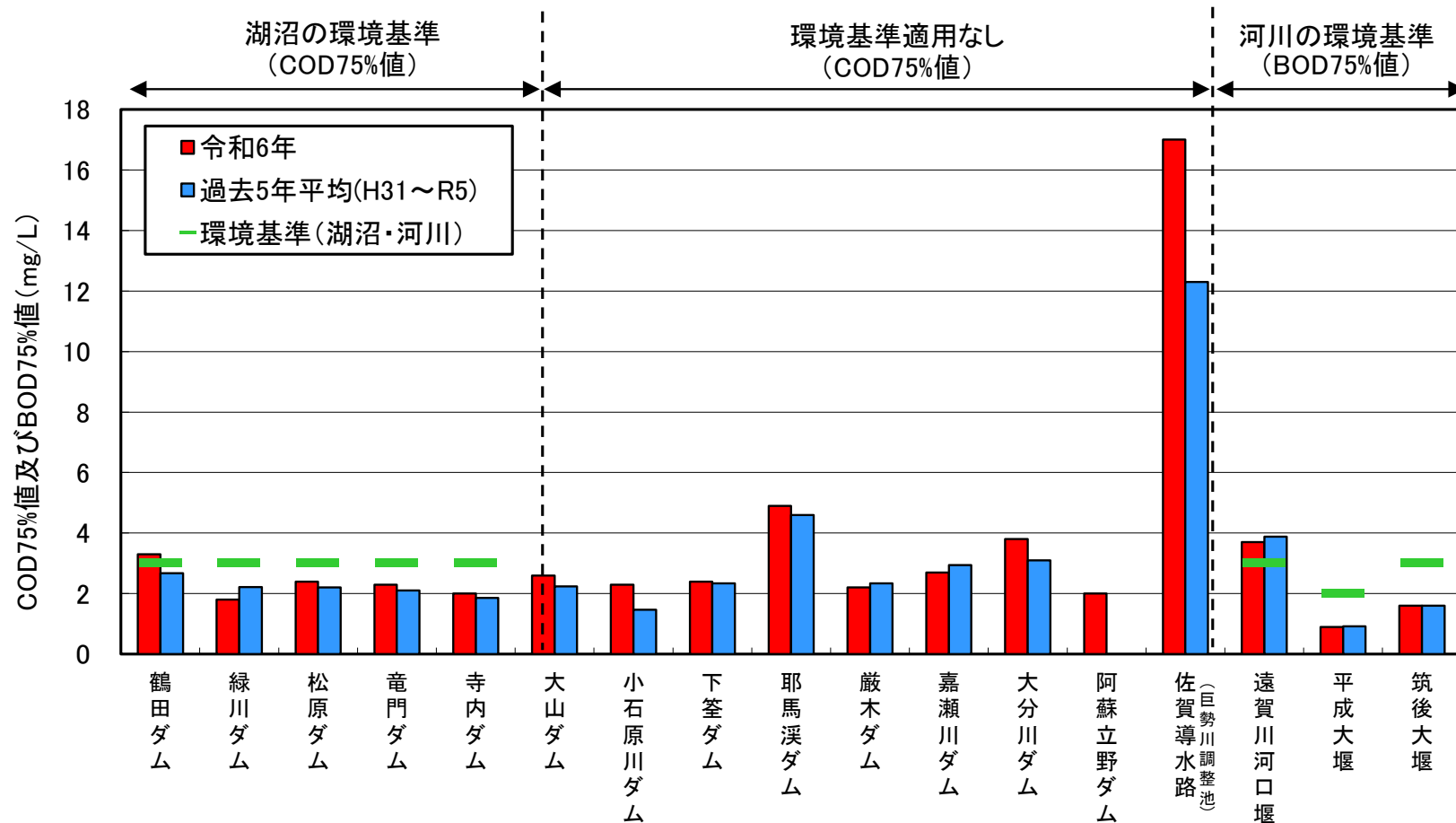


図-17 各ダム・堰等におけるCOD75%値及びBOD75%値

※COD75%値は表層の観測値

水 質（２）水質障害状況

- 令和6年は、鶴田ダム、耶馬溪ダム、大分川ダム、大山ダムにおいて、アオコの発生が確認された。
- また、緑川ダム、大分川ダム、寺内ダム、大山ダム、小石原川ダムにおいて、淡水赤潮の発生が確認された。
- なお、取水の支障等に関する苦情は報告されていない。

表-6 各ダム等における水質障害の経年的な発生状況（淡水赤潮・アオコ・濁水長期化）※R2～R6

	令和2年				令和3年				令和4年				令和5年				令和6年			
	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月
鶴田ダム																				
緑川ダム																				
松原ダム																				
下釜ダム																				
耶馬溪ダム																				
厳木ダム																				
竜門ダム																				
嘉瀬川ダム																				
大分川ダム																				
阿蘇立野ダム																				
寺内ダム																				
大山ダム																				
小石原川ダム																				
遠賀川河口堰																				
平成大堰																				
筑後大堰																				
佐賀導水路 (巨勢川調整池)																				
凡例	淡水赤潮(貯水池全体)				淡水赤潮(一部)				アオコ(貯水池全体)				アオコ(一部)				濁水(濁度10度以上)			
																	冷水・温水障害			
																	その他			

生 物（１）調査実施状況

■ 令和6年度は、13ダム・3堰・1導水路で河川水辺の国勢調査が行われた。

表-7 各ダム、堰等における河川水辺の国勢調査実施状況（令和6年度）

ダム等名称	河川水辺の国勢調査							環境保全対策※3	河川水辺の国勢調査 で新たに確認された 重要種	河川水辺の国勢調査で 前回までの調査で確認されたが 今年度確認されなかった 重要種	河川水辺の国勢調査 で新たに確認された 特定外来生物
	環境 基図	魚 類	底 生 動 物	動 植 物 プ ラ ン ク ト ン	植 物	鳥 類	両 生 ・ 爬 虫 ・ 哺 乳 類				
鶴田ダム		●							なし	ニゴイ、ドジョウ	なし
緑川ダム			●						コシダカヒメモノアラガイ、ホソセシジ ンゴロウ、ガムシ	アジアイトトンボ、ミスバチ、マシジミ	なし
松原ダム							●	コウモリ類調査	コキクガシラコウモリ、ノレンコウモリ、 ユビナガコウモリ	ウシガエル、シュレーゲルアオガエル、クサガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、ヒバ カリ、モモジロコウモリ、アブラコウモリ、テングコウモリ、ニホンザル、ハタネズミ、 ニホンイタチ	なし
下笠ダム							●	超音波録音調査	コキクガシラコウモリ	ニホンアカガエル、クサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンスッポン、タカチホヘ ビ、シロマダラ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、アブラコウモリ、スミスネズミ、 ハタネズミ、ハツカネズミ、ニホンイタチ	なし
耶馬溪ダム			●						スジヒラタガムシ	カワコザラガイ、ヒラマキミズマイマイ、ミドリビル、クチキトビケラ、コガタノゲンゴ ロウ、ミユキシジミガムシ、ゴトウミソドロムシ	なし
厳木ダム			●						なし	コシダカヒメモノアラガイ、カワコザラガイ、マシジミ、グンバイトンボ、キイロサナ エ、マユタテアカネ、オオギカタビロアメンボ、ミズスマシ、ガムシ	なし
竜門ダム						●			ツミ	ササゴイ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コガラ、ピンズイ、カシラダカ	なし
嘉瀬川ダム		●						音無地区生物調査（植物） 河川域調査	なし	ヤマトシマドジョウ、オオヨシノボリ	なし
大分川ダム					●			コウモリ類調査 アユ調査 試験湛水生物調査	コヒロハハナヤスリ、ナンゴクウラシマソ ウ、タシロラン、タヌキマメ、キセウタ	メヤブソテツ、タカネマスキサ、コギキチゴ、コギシギシ、アケボノソウ、カワチシャ	なし
阿蘇立野ダム※1								環境保全措置等検討 猛禽類調査			
寺内ダム							●		ニホンザル	チクシブチサンショウウオ、ヤマアカガエル、ツチガエル、ニホンイシガメ、ニホンスッ ポン、タカチホヘビ、シロマダラ、カワネズミ	ミシシippアカミミガメ
大山ダム							●		ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ジネズ ミ、カワネズミ	コキクガシラコウモリ	アライグマ
小石原川ダム							●		なし	なし	なし
遠賀川河口堰			●					西川オオクリイロカワザンショウ ガイ補足調査	ミヤコドリガイ、ユビアカベンケイガイ、 タバサナエ、テラニシセシジゲンゴロウ	ヒメマルマメタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、カワコザラガイ、クルマヒラマキガ イ、キョウシュウササノハガイ、ハマガイ、ハクセンシオマネキ、ヒメサナエ、オモナガ コミズムシ、ヒメトビイロトビケラ、コガタノゲンゴロウ	なし
平成大堰			●						カワグチツボ、クリイロコミミガイ、コシ ダカヒメモノアラガイ、ハザクラガイ、マ キトラノオガイ、トゲノコギリガザミ、チ ゴイワガニ	コゲツノブエガイ、ウチノミツボ、イヨカワザンショウガイ、カワコザラガイ、マゴコロ ガイ、ミドリビル、イボビル、オサガニ、タバサナエ、ミズカマキリ	なし
筑後大堰							●		コウモリ目（翼手目）※2	トノサマガエル、ツチガエル、ニホンスッポン、ジネズミ、ハタネズミ	アライグマ、ノネコ
佐賀導水路 （巨勢川調整池）							●	巨勢川調整池関連調査	なし		アライグマ

※1 阿蘇立野ダムでは、R6は河川水辺の国勢調査は行われておらず、モニタリング調査が実施されている。

※2 ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、オヒキコウモリのいずれか

生 物（２）魚類

■魚類調査結果の概要（鶴田ダム、嘉瀬川ダム）を以下に示す。

表-8 魚類調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
鶴田 ダム	魚類	<p>概 要：採捕調査により11科31種を確認した。そのうち一般種は17種（53.1％）であった。 一般種の確認個体数組成をみると、ヌマチチブ、カワムツ、ウキゴリ、トウヨシノボリ類、アユで全体の75.7％を占めていた。 前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、2種（ニゴイ、ドジョウ）であった。 重要種：5種（ニホンウナギ、ヤマトシマドジョウ、アリアケギバチ、ミナミメダカ、オオヨシノボリ） 特定外来生物：2種（ブルーギル、オオクチバス）</p>
嘉瀬川 ダム	魚類	<p>概 要：採捕調査により9科22種を確認した。そのうち一般種は14種（63.6％）であった。 一般種の確認個体数組成をみると、オイカワ、カワムツ、タカハヤ、ムギツク、イトモロコで全体の75.6％を占めていた。 前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、2種（ヤマトシマドジョウ、オオヨシノボリ）であった。 重要種：4種（ゼゼラ、ドジョウ、サクラマス（ヤマメ）、ミナミメダカ） 特定外来生物：2種（ブルーギル、オオクチバス）</p>

生 物（３）底生動物

■底生動物調査結果の概要（緑川ダム、耶馬溪ダム）を以下に示す。

表-9(1) 底生動物調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
緑川 ダム	底生 動物	<p>概 要：採捕調査により8綱22目89科231種を確認した。 綱・目別の確認種数をみると、昆虫綱が大部分を占め（87.9%）、次いで腹足綱（4.3%）やミミズ綱（3.9%）が多かった。 昆虫綱の中では、ハエ目が54種で最も多く（23.4%）、次いでカゲロウ目42種（18.2%）、トビケラ目33種（14.3%）、コウチュウ目24種（10.4%）及びカワゲラ目22種（9.5%）であった。前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、3種（アジアイトトンボ、ミズバチ、マシジミ）であった。</p> <p>重要種：10種（コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ、ヒラマキガイモドキ、ムカシトンボ、アオサナエ、ホソセスジゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、ガムシ）</p> <p>特定外来生物：なし</p>
耶馬溪 ダム	底生 動物	<p>概 要：採捕調査により11綱25目92科264種を確認した。 綱・目別の確認種数をみると、昆虫綱が大部分を占め（85.6%）、次いでミミズ綱（4.5%）や腹足綱（2.3%）が多かった。 昆虫綱の中では、ハエ目が63種で最も多く（23.9%）、次いでトビケラ目46種（17.4%）、カゲロウ目41種（15.5%）、トンボ目26種（9.8%）及びコウチュウ目25種（9.5%）であった。前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、7種（カワコザラガイ、ヒラマキミズマイマイ、ミドリビル、クチキトビケラ、コガタノゲンゴロウ、ミユキシジミガムシ、ゴトウミゾドロムシ）であった。</p> <p>重要種：6種（コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、グンバイトンボ、タベサナエ、キイロヤマトンボ、スジヒラタガムシ）</p> <p>特定外来生物：なし</p>

生 物（４）底生動物

■底生動物調査結果の概要（松原ダム、下笠ダム、竜門ダム）を以下に示す。

表-9(2) 底生動物調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
巖木 ダム	底生 動物	<p>概 要：採捕調査により10綱24目83科180種を確認した。 綱・目別の確認種数をみると、昆虫綱が大部分を占め（84.6%）、次いでミミズ綱（4.4%）や腹足綱（3.3%）が多かった。 昆虫綱の中では、ハエ目が47種で最も多く（26.1%）、次いでカゲロウ目28種（15.6%）、トビケラ目26種（14.9%）、トンボ目16種（8.9%）及びコウチュウ目16種（8.9%）であった。 前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、9種（コシダカヒメモノアラガイ、カワコザラガイ、マシジミ、グンバイトンボ、キイロサナエ、マユタテアカネ、オヨギカタビロアメンボ、ミズスマシ、ガムシ）であった。 重要種：5種（モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、コヤマトンボ、スジヒラタガムシ、ゲンジボタル） 特定外来生物：なし</p>

生 物（５）底生動物

■底生動物調査結果の概要（遠賀川河口堰、平成大堰）を以下に示す。

表-9(3) 底生動物調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
遠賀川 河口堰	底生 動物	<p>概 要：採捕調査により10綱36目130科297種を確認した。 綱・目別の確認種数をみると、昆虫綱が大部分を占め（61.1%）、次いで軟甲綱（15.6%）や腹足綱（6.4%）、ミミズ綱（5.8%）が多かった。 昆虫綱の中では、ハエ目が52種で最も多く（17.6%）、次いでカゲロウ目38種（12.9%）、トビケラ目31種（10.5%）、コウチュウ目18種（6.1%）及びトンボ目17種（5.8%）であった。 前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、11種（ヒメマルマメタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、カワコザラガイ、クルマヒラマキガイ、キュウシュウササノハガイ、ハマガニ、ハクセンシオマネキ、ヒメサナエ、オモナガコミズムシ、ヒメトビイロトビケラ、コガタノゲンゴロウ）であった。</p> <p>重要種：14種（ミヤコドリガイ、マルタニシ、モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、ウネナシトマヤガイ、ハザクラガイ、ヒガタスナホリムシ、ユビアカベンケイガニ、タイワンヒライソモドキ、トリウミアカイソモドキ、ナゴヤサナエ、ミズカマキリ、テラニシセスジゲンゴロウ、ヨコミゾドロムシ）</p> <p>特定外来生物：1種（アメリカザリガニ）</p>
平成 大堰	底生 動物	<p>概 要：採捕調査により11綱41目146科349種を確認した。 綱・目別の確認種数をみると、ハエ目（13.8%）、ついでエビ目（12.6%）やカゲロウ目（11.2%）の順で多かった。 前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、10種（コゲツノブエガイ、ウチノミツボ、イヨカワザンショウガイ、カワコザラガイ、マゴコロガイ、ミドリビル、イボビル、オサガニ、タバサナエ、ミズカマキリ）であった。</p> <p>重要種：60種（カワグチツボ、クリイロコミミガイ、コシダカヒメモノアラガイ、ハザクラガイ、マキトラノオガニ、トゲノコギリガザミ、チゴイワガニ、他53種）</p> <p>特定外来生物：なし</p>

生 物（６）植物

■植物調査結果の概要（大分川ダム）を以下に示す。

表-10 植物調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
大分川 ダム	植物	<p>概 要：全体で132科688種が確認された。生活型別の確認種数については、多年生草本が254種（36.9%）と確認種の約4割を占め、次いで一年生草本が123種（17.9%）、落葉樹が98種（14.2%）、シダ植物が76種（11.0%）であった。一年生草本と多年生草本を合わせた草本種が409種（59.4%）となり、木本種が279種（40.6%）となった。</p> <p>科別の確認種数の構成については、イネ科が72種（10.5%）と最も多く、次いでキク科が60種（8.7%）、カヤツリグサ科が33種（4.8%）、であった。上位3科で165種（24.0%）を占め、上位10科で312種（45.3%）を占める結果となった。</p> <p>前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、6種（メヤブソテツ、タカネマスクサ、コジキイチゴ、コギシギシ、アケボノソウ、カワヂシャ）であった。</p> <p>重要種：10科16種（コヒロハハナヤスリ、ナンゴクウラシマソウ、イトモ、シラン、エビネ属、キンラン、タシロラン、ハイチゴザサ、ナガミノツルケマン、タヌキマメ、イヌハギ、ミヤマコナスビ、ナガバジュズネノキ、キセワタ、キバナアキギリ、ミゾコウジュ）</p> <p>特定外来生物：なし</p>

生 物（ 7 ） 鳥 類

■ 鳥類調査結果の概要（竜門ダム）を以下に示す。

表-11 鳥類調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
竜門 ダム	鳥類	<p>概 要：14目33科68種を確認した。河畔林を利用する種（ヒヨドリ、メジロ等）の確認が34種（50%）と最も多く、次いで草地/河畔林を利用する種（ハシブトガラス、カワラヒワ等）が13種（19%）、水域を利用する種（オシドリ、ミサゴ等）が9種（13%）であった。渡り区分別では、留鳥（ヒヨドリ、カルガモ等）の確認が最も多く39種（57.4%）であり、次いで冬鳥（ヒドリガモ、マガモ等）が16種（26.5%）であり、この2区分で全体の約8割を占めた。</p> <p>前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、7種（ササゴイ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コガラ、ビンズイ、カシラダカ）であった。</p> <p>重要種：15種（オシドリ、ツツドリ、イカルチドリ、ミサゴ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカ、フクロウ、アオバズク、アカショウビン、ヤイロチョウ、オオルリ）</p> <p>特定外来生物：2種（ガビチョウ、ソウシチョウ）</p>

生 物（８）両生・爬虫・哺乳類

■両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要（松原ダム・下笠ダム）を以下に示す。

表-12(1) 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
松原 ダム	両生類 爬虫類 哺乳類	<p>概 要：両生類2目7科13種、爬虫類1目5科9種、哺乳類6目12科23種が確認された。全ての調査地区で確認された種は、両生類ではタゴガエル、カジカガエル、哺乳類ではコウベモグラ、アカネズミ、アライグマ、テン（ホンドテン）、イタチ属、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、爬虫類ではニホントカゲであった。前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、両生類のウシガエル及びシュレーゲルアオガエル、爬虫類のクサガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、ヒバカリ、哺乳類のモモジロコウモリ、アブラコウモリ、テングコウモリ、ニホンザル、ハタネズミ、ニホンイタチの計12種であった。</p> <p>重要種：両生類 8種（チクシブチサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、カジカガエル） 哺乳類 9種（ジネズミ、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、ノレンコウモリ、ユビナガコウモリ、コテングコウモリ、ムササビ、スミスネズミ、カヤネズミ） 爬虫類 2種（ジムグリ、シロマダラ） 特定外来生物：1種（アライグマ）</p>
下笠 ダム	両生類 爬虫類 哺乳類	<p>概 要：両生類2目7科11種、爬虫類1目5科9種、哺乳類7目13科22種が確認された。全ての調査地区で確認された種は、哺乳類で4種（アライグマ、タヌキ、キツネ、テン（ホンドテン））であった。前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、両生類のニホンアカガエル、爬虫類のクサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、シロマダラ、哺乳類のモモジロコウモリ、ノレンコウモリ、アブラコウモリ、スミスネズミ、ハタネズミ、ハツカネズミ、ニホンイタチの計12種であった。</p> <p>重要種：両生類 7種（チクシブチサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、カジカガエル） 哺乳類 5種（ジネズミ、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、ムササビ、カヤネズミ） 爬虫類 2種（ジムグリ、ヒバカリ） 特定外来生物：1種（アライグマ）</p>

生 物（９）両生・爬虫・哺乳類

■両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要（佐賀導水路）を以下に示す。

表-12(2) 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
佐賀 導水路 (巨勢川 調整池)	両生類 爬虫類 哺乳類	<p>概 要：両生類1目3科3種、爬虫類2目6科6種、哺乳類4目6科8種が確認された。全ての調査地区で確認された種は、両生類ではヌマガエル、哺乳類ではヒナコウモリ科、アカネズミ、アライグマ、タヌキであった。</p> <p>前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、爬虫類のニホンイシガメ、ニホンスッポン、シムグリの計3種であった。</p> <p>重要種：哺乳類1種（カヤネズミ）</p> <p>特定外来生物：3種（ウシガエル、ミシシippアカミミガメ、アライグマ）</p>

生 物（１０）両生・爬虫・哺乳類

■両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要（寺内ダム、大山ダム）を以下に示す。

表-12(3) 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
寺内 ダム	両生類 爬虫類 哺乳類	<p>概 要：両生類2目6科9種、爬虫類2目5科9種、哺乳類7目12科18種が確認された。新たに確認された種は、爬虫類ではダム湖内で特定外来生物のミシシippアカミミガメ、哺乳類ではダム湖内で重要種ニホンザルの2種であった。</p> <p>前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、両生類のチクシブチサンショウウオ、ヤマアカガエル、ツチガエル、爬虫類のニホンイシガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、シロマダラ、哺乳類のカワネズミの計8種であった。</p> <p>重要種：両生類 4種（アカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル、カジカガエル） 哺乳類 5種（コキクガシラコウモリ（ニホンコキクガシラコウモリ）、ニホンザル、ムササビ、カヤネズミ、キツネ） 爬虫類 2種（ジムグリ、ヒバカリ） 特定外来生物：2種（ウシガエル、アライグマ）</p>
大山 ダム	両生類 爬虫類 哺乳類	<p>概 要：両生類2目7科11種、爬虫類1目4科9種、哺乳類6目12科19種が確認された。春季調査では、両生類2目6科10種、爬虫類1目4科7種、哺乳類6目11科17種を確認、夏季調査では、両生類2目7科9種、爬虫類1目4科5種、哺乳類6目11科13種を確認、冬季調査では、両生類2目6科6種、爬虫類1目3科6種、哺乳類6目11科18種を確認した。</p> <p>前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、哺乳類のコキクガシラコウモリの1種であった。</p> <p>重要種：両生類 4種（チクシブチサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル） 哺乳類 4種（ジネズミ、カワネズミ、ムササビ、カヤネズミ） 爬虫類 3種（ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ） 特定外来生物：1種（アライグマ）</p>

生 物（ 1 1 ） 両生・爬虫・哺乳類

■ 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要（小石原川ダム、筑後大堰）を以下に示す。

表-12(4) 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

ダム等	調査項目	調査結果の概要
小石原川ダム	両生類 爬虫類 哺乳類	<p>概 要：両生類2目7科10種、爬虫類1目4科5種、哺乳類6目12科18種が確認された。新たに確認された主として、爬虫類ではダム湖内でミシシippアカミミガメ、哺乳類ではダム湖内でニホンザルの2種であった。</p> <p>今回調査は、河川水辺の国勢調査の1巡目である。</p> <p>重要種：両生類6種（チクシブチサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、カジカガエル） 哺乳類4種（カワネズミ、ムササビ、カヤネズミ、キツネ） 爬虫類1種（シムグリ） 特定外来生物：1種（アライグマ）</p>
筑後大堰	両生類 爬虫類 哺乳類	<p>概 要：大堰下流（六五郎橋）で7目13科16種、大堰上流（久留米大橋）で22目15科18種、合計7目17科22種が確認された。</p> <p>分類群別にみると、哺乳綱が12種と約半数を占めていた。最も多い哺乳綱の内訳は、ネコ目（食肉目）が6種と最も多く、次いでネズミ目（齧歯目）3種であった。</p> <p>前回調査までに確認され今回未確認の重要種は、両生類のトノサマガエル、ツチガエル、爬虫類のニホンスッポン、哺乳類のジネズミ、ハタネズミの計5種であった。</p> <p>重要種：哺乳類4種（ジネズミ、コウモリ目（ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、オヒキコウモリのいずれか）、カヤネズミ、キツネ） 特定外来生物：1種（アライグマ）</p>

水源地域動態（１）ダムカード配布状況

■ 令和6年のダムカード配布枚数は、緑川ダムや大分川ダム、大山ダム等で前年（令和5年）と比べて若干減少している施設もあるが、全体的には増加している。

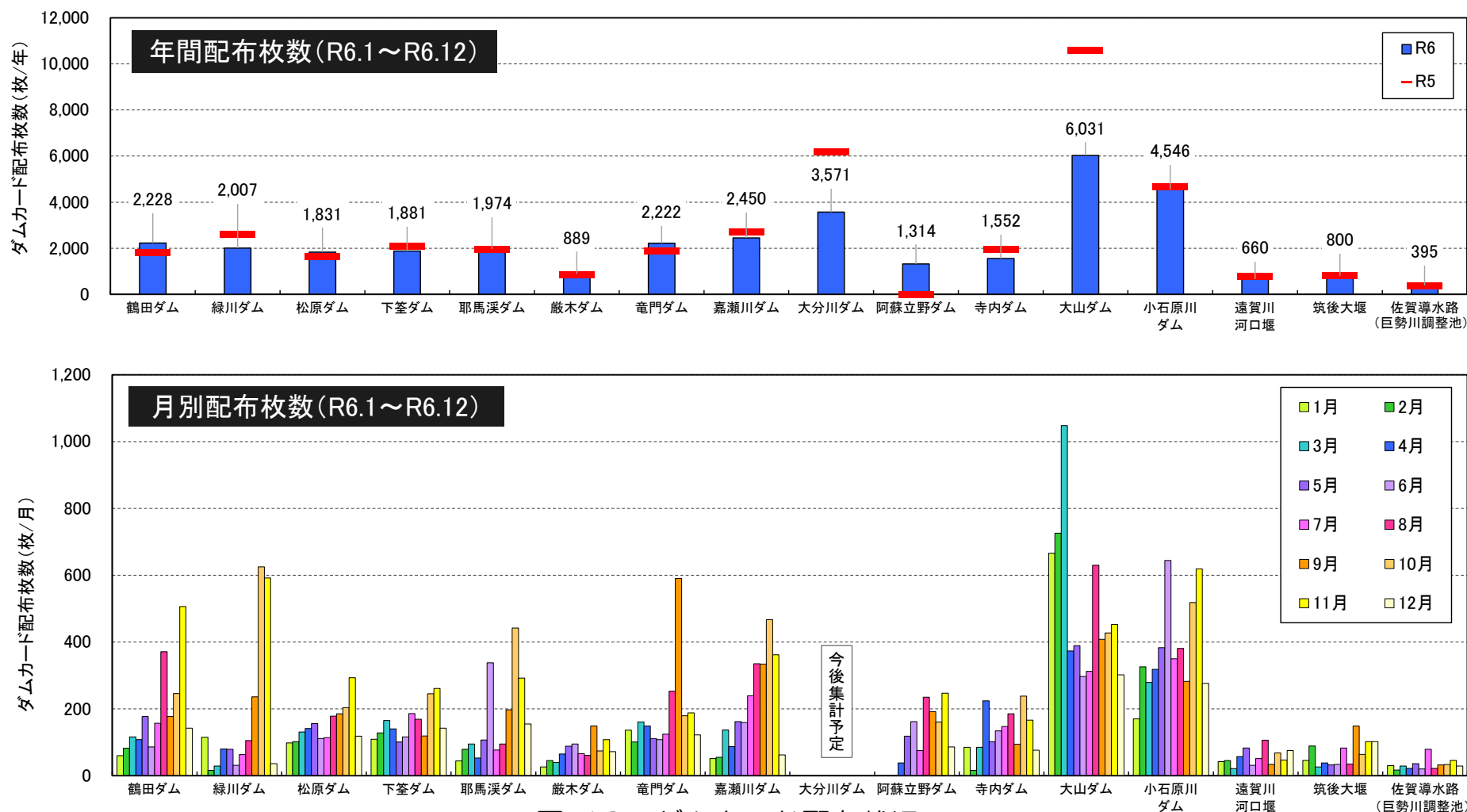


図-18 ダムカード配布状況

水源地域動態（２）ダム等見学

- ダム等の機能や役割への理解を深めていただくために学校等の団体のほか個人も対象に、ダム等の見学を実施している。
- 最も見学者が多かったのは、緑川ダムの小学校23団体を含む年間55団体 1,537人であり、次点で大分川ダムの1,220人、嘉瀬川ダムの1,091人だった。



水源地地域動態（3）情報発信の取組み

X(Twitter)を活用した情報発信

■X（Twitter）を活用し、ダム役割や観光資源としての魅力への理解・関心を深めていただくために施設紹介や維持管理状況を発信している。



【鶴田ダム】
鶴田ダム管理所X R6. 10



【緑川ダム】
緑川ダム管理所X R7. 2



【耶馬溪ダム】
山国川河川事務所X R6. 11



【竜門ダム】
菊池川河川事務所X R6. 12



【嘉瀬川ダム】
佐賀河川事務所X R7. 3



【大分川ダム】
大分河川国道事務所X R6. 9



【阿蘇立野ダム】
熊本河川国道事務所X R7. 20



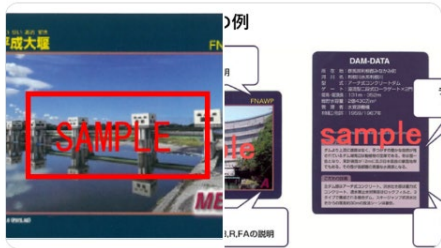
【遠賀川河口堰】
遠賀川河川事務所X R6. 5

水源地域動態（４）情報発信の取組み

X(Twitter)を活用した情報発信

■X（Twitter）を活用し、ダム役割や観光資源としての魅力への理解・関心を深めていただくために施設紹介や維持管理状況を発信している。

国土交通省 山国川河川事務所 @mlit_yamakuni - 3月14日
#平成大堰の#ダムカード新規発行！
より多くの方に平成大堰を知って頂くため、平成大堰ダムカードを令和7年3月21日(金)より#山国川河川事務所で配布開始します
配布時間は9時から17時までです
詳しくは事務所ホームページに掲載しています
qsr.mlitt.go.jp/yamakuni/newst...



【平成大堰】
山国川河川事務所 X R7.3

国土交通省 佐賀河川事務所 @mlit_sagakasen - 2024年9月5日
【#インターンシップ 4日目】
9月5日(木) #佐賀河川事務所で、道路計画と設計を学び、#吉野ヶ里歴史公園へ。午後から#城原川の管理、そして全国2事例の#佐賀導水路の働き方を見学。



【佐賀導水路】
佐賀河川事務所 X R6.9

寺内ダム(水資源機構) @jwa_terauchi - 2024年11月27日
11月26日に寺内ダム周辺でゴミ拾い活動「ノーボーイ運動」を行いました。
当日は、あいにくの雨でしたが、筑後川水系に係る地方公共団体など関係機関の職員、総勢約70名で軽トラ2台分のゴミを回収しました。
寺内ダムの美化に協力をお願いします。



【寺内ダム】
寺内ダム（水資源機構）X R6.11

大山ダム(水資源機構) @jwa_ooyama - 2月27日
大山ダムでは、日田おおやま梅まつりの期間の土日祝日にダムライトアップを行っています。
是非、大山ダムまでお越しください。
期間：令和7年2月16日(日)～3月16日(日)の土日祝日 日没～21時
#日田梅まつり
#大山ダム
#ライトアップ



【大山ダム】
大山ダム（水資源機構）X R7.2

小石原川ダム管理所(水資源機構) @jwa_koishi - 2024年6月28日
先日、雨の中、朝倉市内の小学校4年生約150人が#小石原川ダムに社会科見学に来てくれました。
小学校4年生からダムについて勉強するそうです。
ダムの役割について座学を受け、ダムの中も見学しました！



【小石原川ダム】
小石原川ダム管理所（水資源機構）X R6.6

筑後大堰(水資源機構) @jwa_coozeiki - 2024年8月6日
昨日は、「第365回筑後川花火大会」が行われ、多くの方が観覧されました。本日は、朝から会場となった場所での清掃活動に参加し、昨日のゴミを回収しました。多くの方の憩いの場である筑後川の河川美化にご協力をお願いいたします。
#筑後大堰 #河川ゴミ #清掃 #筑後川花火大会



【筑後大堰】
筑後大堰（水資源機構）X(Twitter) R6.8

水源地地域動態（５）各ダム等での取組み

鶴田ダム

秋の大鶴湖まつり（令和6年11月24日）

- これまで平日のみのダム見学だったが、さつま町より九州地方整備局へ要望がなされ、令和5年10月に河川敷地占用許可準則に基づく「都市・地域再生等利用区域」の指定（河川空間のオープン化と称する）を行い、民間事業者等による鶴田ダムを活用したインフラツーリズム等の営利活動が可能となった。
- 河川空間オープン化のイベントとして、ダム放流やダム湖遊覧船を盛り込んだインフラツーリズムが開催された。



緑川ダム

美里ランタンの森（令和6年10月26日）

- 緑川ダムイベント広場活用プロジェクト主催の下、開催された。
- 音楽ライブや多数の飲食店出店、最後にランタンの打ち上げなど、大いに賑わった。



どんど祭り（令和7年1月11日）

- 毎年恒例のイベント「第26回みどりかわ湖どんど祭り」が開催された。



水源地地域動態（6）各ダム等での取組み

松原ダム

松原ダム貯水池内バス釣り大会（令和6年11月17日）

■NBC(NIPPON BASS CLUB)チャプター大分主催で開催された。



松原ダムイルミネーション

（令和6年12月18日～令和7年2月13日）

■ダム湖周辺地域を盛り上げ、活性化させることを目的として令和5年から実施され、今回2回目が開催された。



下笠ダム

下笠ダム上下流交流会（令和6年10月6日）

- 上下流域の親睦を深めることを目的に「NPO法人 下笠ダム湖と森の会」の主催により開催された。
- カヌー体験や水質調査、下笠ダムにすむ魚など環境を学び、バーベキューによる交流会により親睦を深めた。



蜂の巣湖桜まつり（令和6年4月7日）



第34回蜂ノ巣湖桜まつり



水源地地域動態（7）各ダム等での取り組み

耶馬溪ダム

耶馬溪湖畔祭り（令和6年8月10日）

- 地域活性化の一環として、地域住民のボランティア団体によって構成される「祭りやばけい実行委員会」が主催し開催された。
- 耶馬溪ダム湖周辺において「地域の活性化・水への感謝」をテーマに毎年企画されている。



巖木ダム

さよの湖「湖水祭」

（令和6年10月20日）

- 令和6年度で37回目の開催となった。
- ダム職員と地域や国土交通省OBとの交流活動が行われた。



山国川クリーンアップ大作戦（令和6年10月25日）

- 「NPO法人 耶馬溪の自然と景観を守る会」が主催し、毎年開催されている。



耶馬溪アクアパーク

- 水上スキー、ウェイクボード、バナナボート、湖面遊覧が楽しめ、水上スキー大会、ウェイクサーフィン大会などが開催された。



梅林園開放（令和5年5月） ※令和6年は梅不作のため未実施

- 約300本の梅が咲き誇る梅林園は、例年5月下旬に一般開放し、梅の実取りが行われた。



水源地域動態（８）各ダム等での取組み

竜門ダム

竜門ダムフェスタ ドラゴン夜市（令和6年9月14日）

- 令和5年に引き続き、夜市形式の竜門ダムフェスタが開催された。屋台やキッチンカー、ステージイベント、名物「巨大竹ブランコ」、キャンプ、ダムのおなか探検、その他様々なイベントにより大いに賑わった。
- 同日には「第15回 竜門ダムブラックバス釣り上げ大会」も開催された。



嘉瀬川ダム

水祭（令和6年7月28日）

- イルミネーションで飾りつけされたダムの堤体内の見学会、湖面ではバナナボートやダムタッチ（ダム湖遊覧）など普段は絶対にできない特別な遊びを開催した。
- ダムを見渡せる絶景の芝生広場ではマルシェも出店した。



嘉瀬川ダム感謝祭（令和6年11月10日）

- 第12回嘉瀬川ダム感謝祭は第44回ダム建設功労者表彰祝賀式と同時開催された。
- 感謝祭式典のほか、紅白餅や豚汁、ぜんざいなどが振舞われた。



水源地地域動態（９）各ダム等での取組み

大分川ダム

のつはるファミリーフェスタ2024夏（令和6年9月7日）

- 「道の駅のつはる」による夏祭りで、フリーマーケットや屋台などの出店、「川さかなつかみどり」や「こども紙ひこうき大会」「ななせダム模型実演」など、朝より様々な催しが行われ、最後にのつはる湖にて花火が打ち上げられた。
また夜間には、ダムのライトアップが行われた。



遠賀川河口堰

遠賀川流域フェスタ・ナイトリバー（令和6年10月12日）

- 令和6年度は「感謝」をテーマに、地域の子どもたちが制作したキャンドル（カラーLEDキャンドルを使用）のライトアップや、芦屋町のオーケストラによる演奏も行われた。



水源地域動態（10）各ダム等での取り組み

佐賀導水路

さが桜マラソン（令和7年3月23日）

- 巨勢川調整池がコースの一部に組み込まれた「さが桜マラソン」が開催された。

縄文のものづくり～縄文人の自然素材利用～（令和6年度）

- 国内最古の湿地性貝塚である東名遺跡は、平成28年10月に国史跡に指定された。このイベントは、史跡東名遺跡の保存活用の一環として開催。
- 年今回は「縄文のものづくり」と題し、東名遺跡の出土品からみえる縄文人のものづくりを紹介した企画展と縄文講座を開催した。



寺内ダム

寺内ダムライトアップ2024（令和6年11月1日～5日）

- 豪雨災害にも耐え抜き、下流を守ってくれた寺内ダムのライトアップを実施した。

小石原川・佐田川ノーポイ運動（令和6年11月26日）

- 河川美化運動・水源地域の環境保全の啓発を目的に清掃活動を実施した。



水源地域動態（11）各ダム等での取り組み

大山ダム

おおやま水源林育林事業

「ひと山まるごとガーデニング」

（令和6年9月28日）

- 福岡都市圏の水瓶である上流の水源林「田来原美しい森づくり公園」において、下流域の住民ボランティアによる育林活動（下草刈り）を行い、水源涵養に努めた。



小石原川ダム

小石原川・佐田川ノーポイ運動（令和6年11月26日）

- 小石原川沿川のごみ拾いを実施した。

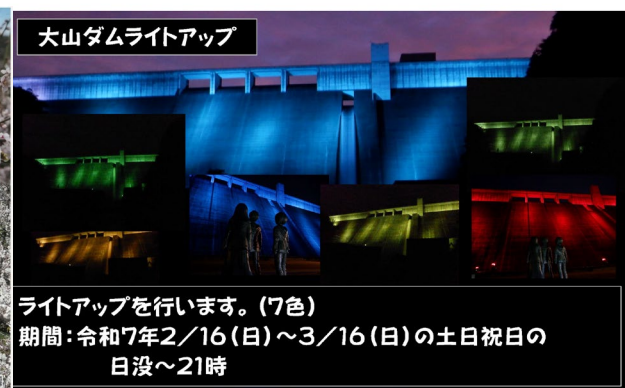


第45回梅まつり

大山ダムライトアップ

（令和7年2月16日～令和7年3月16日）

- 夜間、LED照明が延びる堤頂道路、堤体照明があることから、これを利用してライトアップイベントを行った。



あさくらMTBパーク3時間耐久レース

（令和6年12月1日）

- あさくらマウンテンバイクパークでは、3時間耐久レースが開催された。

